

神奈川工科大学広報

KANAGAWA
INSTITUTE
OF
TECHNOLOGY

Kait

No.163

大学経営と学生サービスのさらなる向上を目指して

新組織体制を編成 「経営管理本部」と「学生支援本部」 2本部制で新たにスタート

News&Topics

高校別在学生数一覧

学科TOPICS

今号の表紙

講義に向かう学生たち
新緑が美しいキャンパスです

大学経営と学生サービスのさらなる向上を目ざして

新組織体制を編成

「**経営管理本部**」と

「**学生支援本部**」

2本部制で新たにスタート

谷村浩二理事と石上純男理事に聞く

スリム化で縦・横の連携が密に。 土台となるのは“学生本位主義”

— 本部制導入の背景 —

編集部：私立大学は厳しい経営状況とよくいわれます。

谷村理事：現在の18歳人口はすでに120万人を切るラインで推移しています。そして10年後には100万人台を切ると予測されているほど右肩下がりの傾向に歯止めがかかりません。こうした状況下で何が必要となるのか。理事会で徹底的に話し合った結果、それは一人ひとりの学生を大切にすること。つまりは、理事長と学長の想いである“学生本位主義”を貫くことだという結論に至りました。この観点から組織と経営を見直したときに出てきた具現策が、今回採用した本部制というわけです。

編集部：本部制に至った経緯についてお話をください。

谷村理事：本学は昭和63年から23年間、事務局は5部から成る部制を敷いており、嘱託等を含めると総勢160名ほどの職員が日々働いてきました。しかし組織が大きくなると各部の間、つまり横の連携がどうしてもスムーズにいきません。縦の連携、指揮命令系統にも齟齬が生じやすい。そこで一つひとつ問題点を洗い直し検証していった結果、現在の部を廃止して「経営管理本部」と「学生支援本部」に統合し、その下に直接必要な課を設置することでよりスムーズな事務組織になるという結論に至り、組織改革に踏み切ったわけです。

編集部：いわばスリム化を図ったわけですね。

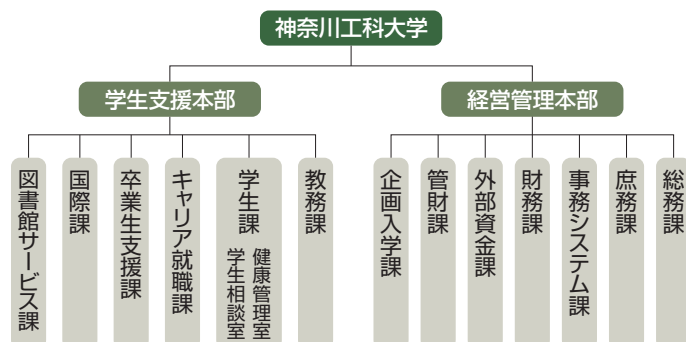
谷村理事：ええ、この改革によって横の連携も、縦の連携もスムーズになって、経営目的に沿ったさまざまな施策も迅速かつ確に実施できるようになると考えています。つまり、従来と比較して一元的な経営管理体制が実現したこと、”痒いところに手が届く”ではないですが、これまでよりも“学生本位主義”＝学生サービスのより一層の向上を図るための経営管理・事務運営が実現すると確信しております。

編集部：職制・職位の面ではどのように変わりましたか？

谷村理事：部は廃止され、経営管理本部の下に7課、学生支援本部の下に6課配置しました。これまでは各部に部長と中間管理職的な意味合いの部長代理、さらにはいくつかの部を統轄する総括部長を置いていましたが、本部に担当部長を置くこととし、その他はすべて廃止しました。また決定・調整のための会議として従来の部長会に変わる合同本部会議を位置づけました。ただ現在はスタートしたばかりで、名称もそのままに事務連絡が中心ですが、徐々に内容的にも発展させ、将来的には「経営管理本部」と「学生支援本部」に関する重要な事項を協議する「場」として活用していく考えです。今回の事務局再編成は、今後ますます厳しくなる経営環境を考えた結果、状況を打破するためには、最も大事な“学生本位主義”を中心とし、同時にこれをさらに深めていくことが一番効果的と考えたからです。後ろ向きや消極的な対応策ではなく、前向きかつ積極的な対応策であることをご理解いただきたいと思います。

編集部：ありがとうございました。

「すべては学生のために!」……。中部謙一郎理事長と小宮一三学長の共通の想いをバックボーンに、今年4月から事務局が再編成されました。目指すのは「『大学経営』と『学生支援』の強化」です。今回の事務局再編成によって誕生した本部制の具体的な狙いと目的、「経営管理本部」と「学生支援本部」の役割、さらには両本部に新設された「外部資金課」「企画入学課」「卒業生支援課」のビジョンや業務内容について、経営管理本部長を務める谷村浩二理事と学生支援本部長を務める石上純男理事にインタビューをして伺いました。



すべての経営資源が対象 人・もの・予算を一元管理

— 経営管理本部 —

編集部：「経営管理本部」はどのような役割を担っているのでしょうか。

谷村理事：ひと言でいいますと経営資源の適切な管理運営を目指すセクションです。大学における経営資源とは人材と物、そしてお金です。これらを一元的に管理運営するセクションです。みなさんご承知のように大学の経営は入学者に負う面が非常に大きくて、ほとんどといっても過言ではありません。特に本学は他の多くの私立大学とは異なり、入学時に入学金は払っていただくものの、1年次を含めて2年次、3年次、4年次の各学年において授業料以外、例えば寄付金などは一切徴収していません。私学助成など公の補助金は受けていますが、授業料がすべての財源なのです。つまりは今年、何人の入学者を確保しなければいけないか、そのためにはどのような事をしなければいけないかは、経営の根幹に関わる極めて重要な事項です。このような状況下において、複雑で大きな組織は小回りが効かず、迅速かつ適切な意思決定を行うことができません。経営判断に致命的な結果を及ぼしてしまう恐れがあります。そこでこの「経営管理本部」で人、物、お金を一元管理することにしました。

編集部：研究活動に関わることも処理すると聞いています。

谷村理事：はい、「経営管理本部」の下に新設した「外部資金課」が担当することになります。

編集部：「経営管理本部」は大学を人間に例えると、いわば頭脳に当たるといえますね。

谷村理事：ええ、極めて重要な役割を担う組織ではないでしょうか。



4年間の学生生活を把握 親身に対応し就職に大きく貢献

— 学生支援本部 —

編集部：「学生支援本部」はどのような役割を担っているのでしょうか。

石上理事：ひと言でいうと理事長と学長のモットー＝“学生本位主義”を具現化する組織といえます。これまで教育職員と事務職員、双方の連携は決してスムーズではありませんでした。特に事務職員の場合、学生の教育面では教務課やキャリア就職課、生活面では学生課など、各課が独立して個別に対応していたような状況でした。そこでどのように事務局が一体化すれば、本当の意味で“学生本位主義”を貫けるのか——。これを徹底して追求した結果誕生したのが「学生支援本部」というわけです。

編集部：具体的にはどのように学生を支援していくのでしょうか？

石上理事：一人の学生が入学して必要な科目を履修し、専門知識を修得して、クラブ活動やサークル活動を行いながら学生生活を謳歌し、就職先を決めて卒業していく……。この入学してから卒業までの“入り口から出口まで”を一元化してきちんと把握していきます。これまでもクラス担任制によって

個別に対応するなどある程度のフォロー体制はあったものの十分に機能していたとはいえませんでした。こうしたことから、例えば「学生支援本部」では学生一人ひとりの4年間の学生生活を詳細に把握する学生ポートフォリオシステムを構築し、在学中におけるさまざまな行動を記録して、学業、生活はもちろん、心の問題まで必要に応じてそのつど親身に対応していきます。またこの4年間の軌跡はその学生の個性であり特徴でもあります。就職活動時にはそうした人物像を全面に考慮した指導を行うことで、自分の性格には合わない職種や職場に就職してしまう“ミスマッチ”を防ぐこともでき、最終的に就職の質の向上にも大きく貢献できるものと期待しております。

編集部：なるほど。確かに現在のよう
な経済状況下では学生や保護者の就職への期待値が非常に大きいですから。

石上理事：文部科学省に採択された就業力GPや先頃打ち出した新教育体系とも連動しながら、「学生支援本部」では就職対策には全力で取り組んでいきたいと考えています。



事務局再編で新に設置された部署

外部資金課

資金を一括して管理運営 研究の質の向上に貢献

編集部：「外部資金課」についてお伺いします。

谷村理事：旧経理課にあった用度担当という部署を独立させたセクションです。担当部署を独立させるということは、業務の実質化・一元化に逆行しているように思えるかも知れませんが、しかし……。

編集部：特別な役割があるというわけですね。

谷村理事：ええ、外部資金というのは公的な資金や企業からの資金のことで、そのほとんどは研究資金として活用されます。つまり「外部資金＝研究資金」といってもよく、大学にとっては非常に重要なものなのです。だからこそ外部資金を扱うセクションをあえて独立させたわけです。

編集部：なるほど。研究活動を活性化させるためのセクションというわけですね。

谷村理事：大学、特に本学のような理工系の分野の大学は、研究によって培った理論や技術を学生の教育に反映させるとともに、社会に対して積極的に還元していく役割も担っています。「研究の活発化→多くの成果の達成→充実した社会還元」という図式が成り立ちますが、そのおおもとを担っていくのが「外部資金課」で、その本質は研究支援部局なのです。

編集部：具体的な業務内容はいかがでしょう。

谷村理事：例えば、どのようにアピールすれば文部科学省の科学研究費（科研費）などの公的補助金がつきやすいのか、そのための申請書の書き方まで、関連するありとあらゆる事務の助言、お手伝いをしていきます。



外部資金課は企業等との受託研究費など研究資金を扱い、研究活動の活性化をめざす。

企画入学課

情報の共有化・一元化で より優秀な学生を確保

編集部：「企画入学課」についてはいかがでしょう？

谷村理事：これまで入試広報部にあった旧企画広報課と旧入試課を統合したセクションです。この2つの課は、例えばオープンキャンパスなどを通して、高校生や保護者に大学の情報を提供し、入学につなげる業務を共に行ってきました。先ほども申しましたが、入学者数は大学経営、特に寄付金等を一切徴収しない大学にとっては大学経営の根幹です。幸い、おかげさまで今年も多く優秀な高校生に入学していただきました。この経営的に非常に重要な部分を担っているセクションを一元化することで、これまで以上の力が発揮できるのではないかと考えたわけです。

編集部：名称も工夫したと伺っています。

谷村理事：本学もそうでしたが、一般的には学生の入学に携わりますから「入試」という言葉が多く使われています。しかし従来は入学という入試を連想したでしょうが、現在では選抜も非常に多様化が進んでいますから的確な言葉とは言い難い。そこで「学生の入学についてあらゆる角度から企画立案とその実行をはかり、責任を持つ部署」という意味を込めて「企画入学課」という名称にしたのです。

編集部：他の部署との連携も今まで以上と伺っています。

谷村理事：もちろんです。業務が縦割りにならないように各課の垣根も低くしていますし、徹底して情報の共有化・一元化を図るようにしています。ですからお互いに連携し合いながら広い視野を持って仕事に取り組んでいくことができると思います。



高校生の進路研究に役立ててほしいオープンキャンパス。今年度は計7回の実施を計画。

卒業生支援課

卒業生と未内定者の就職支援 起業や転職もバックアップ

編集部：「卒業生支援課」はいかがでしょう？

石上理事：本学は過去「就職に強い大学」と、マスコミも含めていろいろな分野から高く評価されて、就職内定率も就職決定率も文部科学省や厚生労働省の発表データをいつも上回っていました。ところが2008年のリーマンショック以来、他大学ほどではないでしょうが実際に厳しい状況が続いています。

編集部：こうした学生が卒業してしまうと一般的にはハローワークなどの公的機関などを活用しながら、学校を離れて独自に就職活動をせざるを得ないようです。

石上理事：つまり孤立化してしまう恐れがあります。また無事就職したとしても職場と本人のいわゆる“ミスマッチ”で、3年以内に離職や転職をしようとする卒業生もいます。大学は学生が財産ですから、こうした状況下に置かれている卒業生に対しても温かな手を差し伸べなければなりません。従来もキャリア就職センターで一部フォローしていたのですがどうしても十分に対応し切れませんでした。そこでキャリア就職課の要員とは別に新たに2名増員して「卒業生支援課」を新設したのです。

編集部：具体的にどのようなように対応するのでしょうか。

石上理事：例えば内定を得ずに卒業してしまった学生を1年間研究生として在席させ、そこを拠点としながら就職活動ができるような体制を敷き、全面的に支援していきます。加えて起業をしたいという卒業生、転職希望の卒業生に対しても全力でバックアップします。その意味で「卒業生支援課」は卒業生と未内定者に特化して就職支援を行うセクションといえます。



学内で行われる合同企業説明会には、既卒生も参加できる体制を整えている。

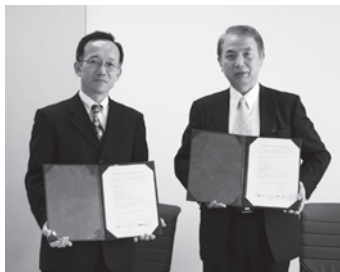


教育交流に関する協定を締結

神奈川県立厚木高等学校との教育交流に関する協定を締結

神奈川県立厚木高等学校との教育交流に関する協定の調印式が4月20日、本学において執り行われました。

調印式では、県立厚木高等学校の田中均校長と小宮一三学長が協定書への署名を行い、今後の取り組みについての意見が交わされました。田中校長は、「本校は109年目を迎える伝統ある高校だが、更なる教育内容の充実を図るため、探究、体験活動の充実を目指している。教育改革を実現するには、大学に力添えをいただき、これから充実した連携をお願いしたい。」と今後の連携活動への期待を述べられました。また、小宮学長は「本学の建学の理念として、地域への貢献があるが、この度の協定により、次世代を担う人材育成を厚木高校と手を組んで行っていくことは大変意義のあることである。」と述べました。



協定書を取り交わした田中校長(左)と本学小宮一三学長(右)

国際交流

International Communications and Exchanges

インド情報技術大学ジャバルプール校の学生が自動車工学棟を見学

5月19日、インド情報技術大学ジャバルプール校(IIITDM・J)の学生15名が本学を訪れ、自動車工学棟の施設を見学しました。学生は機械工学や電子通信工学、コンピュータサイエンスを専攻しており、本学の施設・設備を大変興味深く見学しました。自動車工学棟は自動車の性能研究を中心に、国内では本学にしかない大型設備も導入されており、それらについて自動車システム開発工学科宇田准教授より説明を行いました。また、同学科の学生が製作したPico EV車両の試走を体験し、記念撮影を行い、最後にIIITDM・Jの学生より、御礼の言葉が述べられました。



教員の活躍

ACTIVITY

本学の教員3名が、日本機械学会よりフェローに認定されました

情報工学科松田三知子教授、機械工学科川島豪教授、自動車システム開工学科西口磯春教授が日本機械学会よりフェローに認定されました。

松田三知子教授は、機械及び機械システムとその関連分野において顕著な貢献と功績が評価されたものです。松田教授の専門分野は、生産システム工学、特に情報処理技術を駆使したもののづくり支援です。2009年度には、同学会生産システム部門の部門長を務められ、同学会初の女性部門長として生産システム技術の発展に貢献されました。フェロー称号授与にあたり、「大変光栄に思います。けれども、これに奢ることなく、謙虚な姿勢で誠意をもって全力で課題に取り組む技術者であり続けたいと思います。」と抱負を述べました。

川島教授は、環境工学部門の「振動・騒音制御技術分野」において、アクティブロッキングチェアの開発などをとおして振動の快適化技術の発展に貢献し、2001年には研究業績賞を受賞。また、温室効果ガス削減を目指す「自然エネルギーを利用した間歇充電式電気バスシステム」の研究成果を「環境保全型エネルギー技術分野」で発表したことによる部門横断的な研究活動が評価されました。さらに、部門幹事、部門の広報委員会委員長などで部門運営に貢献してきたことも評価されました。

西口教授は、構造力学関係の規格・基準の策定への寄与が評価されたものです。フェロー称号授与にあたり西口教授は「学会発表をするために日本機械学会の学生会員になったのが1978年。当時、大学院生でした。改めて、時の経つのは早いと感じています。」と感想を述べました。

また、松田教授は、先の日本機械学会「2010年度標準事業表彰」において、基準に関する国際交流や国際的地位の向上、もしくは日本の標準化事業の発展への顕著な貢献

に対して授与される「国際功績賞」を受賞しています。この受賞は、国際標準化機構(略称ISO)という工業分野の国際規格を策定する団体での活動が評価されたものです。松田教授は、ISOの生産ソフトウェア環境に関する国際規格を開発する作業グループでリーダーを務め、日本発の国際規格ISO 16100シリーズの開発を主導しました。

西口教授は日本機械学会より「2010年度標準事業表彰貢献賞」を受賞しました。基準や規格は、機械や設備を製作し、その安全を維持するために不可欠なものです。この賞は、基準や規格の作成や普及に対して顕著な貢献をされた個人が表彰されるもので、西口教授の受賞は、火力発電所を建設・維持するための規格・基準を作成する委員会の委員長としての功績が評価されました。



情報工学科 松田三知子教授



機械工学科 川島豪教授



自動車システム開工学科 西口磯春教授

「次世代音楽音響システム研究プロジェクト」次期DVD作品のレコーディングを実施

本プロジェクトでは、本学の専門家と学生諸君が一緒になって次世代の音楽音響システムの開発研究を行っています。これまでに、サラウンドピアノという新しい楽器システムを用いたDVD作品の制作・発売、伝統的な鍵盤楽器を発展させたネオヴィコードの開発、サウンド塾やPA講習などの教育プログラム、神奈川工科大学厚木市子ども科学館でのコンサートや「食とアートのコラボレーション」の実施など、多岐にわたって活動を行ってきました。写真は、この夏に発売予定のDVD作品のためのレコーディング風景で4月7日に本学のサウンドスタジオで実施されました。サラウンドピアノの演奏は野本晴美さんです。野本さんはこの6月にもNHKのセッション2011に出演して演奏するなど、活躍中のジャズピアニストです。録音にはPA講習の講師でもある加藤明氏にも参加して頂きました。今年のグラミー賞を受賞したポール・ウィンターのCDの録音は、この加藤さんによるものです。

なお、現在発売中のDVD作品「Surround Piano」は、Amazon.co.jpやHMVのサイトで購入できます。

(文責:自動車システム開発工学科教授/西口磯春)



文科省就業力GP 採択事業

本学の就業力育成プログラム

就業力育成事業シンポジウムが 開催されました

3月8日、平成22年度の実業力育成事業の取り組み成果を学内外に広報することを目的としたシンポジウムが企業や大学、高等学校などから52名の参加を得て開催されました。シンポジウムのテーマは本学が就業力育成を中心として取り組む、体系的な全学就業力育成プログラムの構築です。株式会社リアセックキャリア総合研究所長 角方正幸氏をお迎えし、「大学が取組む就業力育成と社会が求める人材」という題目で基調講演を頂いた後、平成22年度の事業報告を行いました。事業報告では、各ワーキンググループ主査より、取組事業概況、学生が自ら学習の振り返りができ就業力育成につながるインフラであるキャリアポートフォリオの検討内容、平成24年度から全学的にカリキュラムに導入を予定するキャリア開発科目の検討状況、本事業内容を学内外に広く広報する教育広報の取り組みなどが報告されました。

平成22年度の事業目標はキャリアポートフォリオなどの就業力インフラの基盤整備やキャリア科目の検討などの準備検討が中心でしたが、事業の本格的な始動から数カ月月の期間であり、ほぼ目標を満足する成果が示されたと考えられます。

平成23年度はさらに前年度の検討事項を基本に、具体的な就業力育成につながる手法や仕組みをさらに検討し、平成24年度からの学生に対する本格的な事業実施にむけての具体化を進めたいと考えております。



『2012年度夢の実現プロジェクト』12団体が採択!

学生の皆さんの「ものづくり」にける情熱に対して、活動資金を支援する制度「2012年度夢の実現プロジェクト」のプレゼンテーションが5月30日にKAIT工房で行われました。その結果、12団体の採択が決定。採択された団体は今後、ものづくり活動を行い、11月の学園祭では、活動報告（ポスターセッション）を実施し、来年2月には、採択されてからの活動報告書と決算報告書をまとめます。



団体名	参加人数	活動目標
KAIT Future Creators	15名	国際バーチャルリアリティコンテスト出場
KAIT ソーラーカープロジェクト	10名	Dream Cup ソーラーカーレース出場
フォーミュラSAEプロジェクト	5名	全日本学生フォーミュラ大会出場
相撲ロボット技術研究会	4名	ロボット相撲大会出場
LINEAR (リニア)	6名	ETロボコン2011への出場
Bio Club (バイオクラブ)	21名	ホタルの復活
KWR修理屋	14名	車椅子の修理・メンテナンス、工学的技術の向上
KAIT iGEM Project	6名	世界合成生物大会に参加・出品
ロボット制御研究会	14名	NHK大学ロボコンへの出場
KAITバイクトライアル	7名	競技用マウンテンバイクを開発し、全日本バイクトライアル選手権に出場
ライントレーサー技術研究会	13名	マイコンカーラリー競技会出場
micro FCV Project	8名	FCV競技大会出場

平成22年度『ハイアクティビティ賞』『課外活動賞』が決定

本学では、課外活動などにおいて活躍した学生を対象に、独自の表彰制度を設けています。平成22年度では以下の通り受賞者が決定しました。

ハイアクティビティ部門

■ハイアクティビティ賞

(団体表彰)

「情報工学科 CEATEC出展チーム」…… 4名
「クラウド時代の携帯アプリ開発プロジェクト」… 6名
「栄養生命科学科第一期生」…… 46名全員
「こっぺぱん」…… 4名
「メディア工房管理委員会」…… 18名
「電気電子情報工学科OBJECTO実行委員会」… 10名
「KAITソーラーカープロジェクト」…… 11名
「電子情報通信学会学生会役員」…… 3名
「『子供科学実験』研究チーム」…… 10名
「流れのふしぎ展実行委員会」…… 25名

「電子ロボ実行委員会」…… 27名
「鳥人間プロジェクト」…… 15名
「神奈川産学チャレンジプログラム
神奈川工科大学「チームVer. 3.60」」… 4名
「神奈川産学チャレンジプログラム
神奈川工科大学「まりちゃん.com」」… 3名
「田中部屋」…… 5名
「安部研究室ドライビングシミュレータチーム」… 8名
「神奈川工科大学 FCVプロジェクト」…… 6名
「神奈川工科大学 micro FCVプロジェクト」 6名

(個人表彰)

鈴木 麻 優 (工学部機械工学科航空宇宙学専攻2年)
佐々木 亜由実 (応用バイオ科学部応用バイオ科学科3年)
小 堺 卓 哉 (情報学部情報メディア学科3年)
手塚 悠 太 (大学院博士前期課程情報工学専攻1年)
比 嘉 司 (大学院博士前期課程電気電子工学専攻1年)
安倍 和 弥 (大学院博士前期課程電気電子工学専攻1年)

※学生の学年は平成22年度時点を記載。

課外活動部門

■最優秀課外活動部門

(団体表彰)

「電気通信部」…… 17名
「自転車部」…… 8名
「航空研究部」…… 12名

(個人表彰)

稲 見 優 (応用バイオ科学部栄養生命科学科1年)
木 溪 英 明 (情報学部情報工学科3年)
「陸上競技部」池 田 幸 広 (情報学部情報メディア学科2年)
「硬式庭球部」大 西 秀 幸 (応用バイオ科学部応用バイオ科学科3年)

※学生の学年は平成22年度時点を記載。

KAIT工房通信

「KAIT工房」開設4年目を迎えて

KAIT工房も、今の人気集中の施設になって丸3年が過ぎ、その間、延べにして約3万名に達する利用者を迎え、益々使いやすい、親しみのある、明るく活気のある工房を目指します。今までに増して歩みを先へ進める提案を続けて行こうとスタッフ一同気持ちを新たにしています。

今年もお子様から、シルバー世代にまで巾の広い利用希望をいただいています。学生諸君も負けずに新しい『ものづくり』の世界を大いに展開してもらいたいと思います。

3月11日の大震災により、東北地方をはじめとして日本中が大きな痛手を負いました。本工房におきまして約3週間近い閉館、そして現在も続く節電のための協力と、支援を実施しております。「空飛ぶ車椅子運動」の活動に力を入れてきた学生諸氏も、工房での活動を含め、今は被災地への救援を主力にして、先日新聞にも紹介されました。

この事ばかりではなく、この大学の持っている力が日本全体への復興とやさしさに貢献できるということに気が付くということが大切なことです。そのためには今以上に、若い『ものづくり』への情熱を注ぎこむことです。もっと、自由な発想を重ね、それを継続していけば、それは自分自身の力となり、そして知らぬ間に人のための力になっているのです。その何度も繰り返す楽しい痛快な発想を導き出すために存在しているのです。日本にひとつしかない施設、KAIT工房が、学生諸君の止むことのない利用を待っています。

(文責:KAIT工房/西尾)

エコ活動の報告



今年度スタートのさまざまなエコ活動

◆中央緑地公園の緑化管理(除草・芝育成・花育成)作業を4日間に渡って実施しました。合計で約80名の学生の皆さんが参加しました。温暖化防止・CO₂削減にもつながる緑化推進を今後も学生の皆さんと実施していきます。

◆ミニ循環型推進モデルとして本年も引き続き、栄養生命科学科(高橋先生、大森先生、河村先生)に協力いただき、調理実習で排出される生ゴミの肥料化とその肥料を利用した屋上菜園での野菜育成を行っています。今年は、運営スタッフ学生の皆さんの希望により育成野菜の種類を増やし、レタス、小松菜、パセリ、にんじん、さつまいも、ナス、トマトなどの苗植え・種まきを行いました。収穫時には、学食や、調理実習にも提供予定です。

◆図書館入り口に、水生生物観賞用の水槽を設置しました。環境の変化に敏感な水生生物を見て生態系に関心を持ってもらうこと、また、鑑賞することでの環境リラゼーション効果も期待しています。

◆省エネルギー対策として、クールビズを本年は5月16日からスタートしました。また冷房設定温度28度推進も実施します。このための周知ポスターを学生の皆さんで作成し、各講義室に掲示いたしました。



大学院生対象の奨学金制度 『中部謙次郎賞』『大岐良一賞』『石原健男賞』表彰

本学大学院博士前期課程に在籍する大学院生を対象とする『中部謙次郎賞』、『大岐良一賞』、『石原健男賞』の授与式が5月17日に貴賓室で行われました。

本賞は、中部謙次郎氏、大岐良一先生、および石原健男先生の三氏の生前の業績と教育奨励に対する強い思いを末永く顕彰するため、毎年、中部謙一郎理事長が個人の資金を提供し、継続している奨学金制度です。

授与式では小宮学長から、成績および人物ともに優秀な学生に奨学金が授与されました。

また、今年は、「社会人基礎力グランプリ2011関東地区予選」で優秀賞を受賞し、全国大会に出場したホームエレクトロニクス開発学科の学生に特別賞が贈られ、同時に授与式が行われました。

平成22年度表彰

「中部謙次郎賞」受賞者

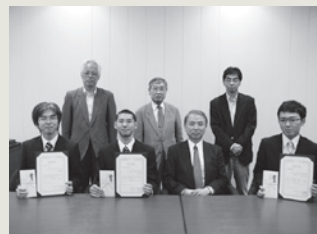
比嘉 司
(電気電子工学専攻)

「大岐良一賞」受賞者

坂井 佑輔
(応用化学・バイオサイエンス専攻)

「石原健男賞」受賞者

小 船 達 朗
(機械システム工学専攻)



特別賞受賞者

ホームエレクトロニクス開発学科 「実践プロジェクトチーム」

中 島 義 人 (同学科4年)
君 野 祐 希 (同学科4年)
田 崎 義 憲 (同学科4年)
関 野 佑 樹 (同学科4年)
熊 澤 悠 記 (同学科3年)



中部謙次郎氏: 本学園前理事長。中部謙一郎理事長の実父。様々な分野で世界を担う技術者の育成に尽力。

大岐良一先生: 医療法人玉扇会前理事長。中部謙一郎理事長の岳父。これからの日本を背負う若い世代を幅広く応援。

石原健男先生: 元常任理事。大洋漁業(株)(現・㈱マルハニチロホールディングス)専務取締役から昭和52年3月に本学常任理事就任。平成元年の退任まで永く本学の発展に貢献。

名誉教授記 授与式を挙行

6月15日、情報学部棟貴賓室において、名誉教授記授与式が執り行われました。

小宮一三学長より、以下の4名の方々に名誉教授の称号が授与され、永年に亘り本学の教育・研究の分野において、多大な貢献をされたことに対し感謝の言葉が贈られました。

名誉教授記 授与者

徳 増 眞 司 名誉教授 (元情報学部長、情報工学科教授)
石 坂 充 弘 名誉教授 (元情報ネットワーク・コミュニケーション学科教授)
関 靖 夫 名誉教授 (元情報メディア学科教授)
遠 藤 順 一 名誉教授 (元自動車システム開発工学科教授)



高校別在学生数一覧

高校名	1年	2年	3年	4年
北海道	17	20	11	18
旭川北				1
旭川工業				1
旭川東栄		1		
旭川西			1	
旭川藤女子		1		
旭川明成				1
旭川凌雲	1			
石狩南		1	1	
岩見沢東			1	1
大麻	1			1
帯広北	3	1	1	
帯広工業				1
帯広緑陽	1		1	1
北広島			1	
釧路江南	2			1
釧路湖陵			1	
クラーク記念国際	1	9	2	
札幌旭丘	1			
札幌清田	1			
札幌光星		1		1
札幌国際情報	1			
札幌篠路				1
札幌白石				1
札幌創成				1
札幌平岡	1			
札幌南			1	
星槎国際	1			
滝川				1
苫小牧南		1		
函館				1
函館工業		3	1	2
函館西		1		
函館東				1
北星学園大学附属	1			
北海	1			
紋別	1			
留萌				1
稚内		1		
青森県	21	10	16	11
青森北		1	1	
青森工業	4	1	1	1
青森中央	2		1	1
青森戸山			2	
青森東	1	1	1	
青森南	1	1		
青森山田		1		
板柳			1	
木造	1		2	
黒石				1
光星学院野辺地西			1	
五所川原	1			
三本木	1			1
三本木農業	1	2		
松風塾	1			1
田名部			1	
鶴田				1
東奥学園			1	
東奥義塾		1		
十和田工業	1		2	
八戸北	2			
八戸工業	2		1	1
八戸聖ウルスラ学院	1			
八戸南		1		
弘前工業				1
弘前実業				1
弘前南	2	1		
三沢			1	2
岩手県	14	10	11	7
一関学院	1			
一関工業				1
一関第二			2	
岩泉		1		
岩手		1		1
大船渡			1	
金ケ崎	2	2		
釜石	1			
北上翔南	1	1		
黒沢尻北	1			
黒沢尻工業	1		1	1
不来方	1			1
千厩			1	
大東	1			
花巻北		1		
福岡工業				2
水沢	2	2		

高校名	1年	2年	3年	4年
宮古	2		1	
盛岡北		1	1	
盛岡工業		1		
盛岡商業				1
盛岡第二	1			
盛岡中央			1	
盛岡南			3	
宮城県	13	6	4	16
石巻				1
石巻好文館	1			
石巻西				1
泉	1			
一迫商業			1	
気仙沼	1			1
工業		1		2
佐沼	1			
塩釜				1
仙台育英学園	2		1	2
仙台第三	1			1
仙台第二				1
仙台向山	1			1
多賀城			1	1
築館	1			
東北			1	
東北学院		1		
東陵	1			
名取北		1		
迫桜		1		
古川		1		2
古川学園	2	1		
古川工業				1
宮城第一	1			
利府				1
秋田県	23	23	16	16
秋田			1	
秋田北	1	1	2	
秋田工業			1	1
秋田商業	1	1		
秋田西		3		
秋田南		1	1	
秋田和洋女子	1			
新屋	1		2	3
大館				1
大館工業	2		1	1
大館国際情報学院	1	1		
男鹿工業		1		
金足農業			1	
国学院		2		1
聖霊女子短期大学付属		2		
鷹巣	1			1
仁賀保	1	1		
西目		1		
能代			1	
能代工業		1		
花輪			1	
平成			1	
本荘	1		1	1
増田	3			1
明桜		1	1	2
湯沢	2			2
湯沢北		1		
由利	3	2	2	1
由利工業		1		1
横手城南	5	2		
横手清陵学院		1		
山形県	22	20	12	10
上山明新館		1		1
九里学園			1	
蔵王	1			
寒河江工業	1	1	1	1
酒田工業	2	2	1	
酒田西	1	1		
酒田南	1			1
新庄神室産業				1
新庄東		1		
新庄南			1	
鶴岡北		1		1
鶴岡工業	3	3	1	
鶴岡中央	1	2		
長井	2			
長井工業	1			
南陽	1	1	1	
日本大学山形		1		1
羽黒	1		1	
東根工業		1		

高校名	1年	2年	3年	4年
山形工業	1	1	2	1
山形中央	1			
山形電波工業		1		
山本学園		1		2
米沢工業	4		2	
米沢興譲館		1		
米沢中央		1	1	
米沢東	1		1	
福島県	29	41	34	41
会津学風			1	
会津工業	2	4	1	3
葵				1
安積		1		
安積黎明			1	
石川(私立)	2			
磐城		1		
いわき光洋	2	4	1	2
磐城桜が丘		1		
いわき総合				1
磐城農業	1			
岩瀬農業	1	1		1
喜多方		3	1	3
喜多方工業		1		
郡山				2
郡山北工業	1	2	3	2
郡山東	4			1
尚志	1			2
白河	2	1	1	1
白河旭		1		1
白河実業			1	
聖光学院	1	1	1	
清陵情報	1	2		1
相馬		1		
相馬東	1		1	
平工業	1	7	3	3
只見				1
富岡				1
勿来工業			1	3
日本大学東北	1			
塙工業		1		
原町	1	1	1	1
坂下		2	1	
東日本国際大学附属昌平			2	3
福島(私立)				1
福島工業	2		4	2
福島商業			1	
福島成蹊	2	1		
福島西		2	2	
福島東	1	1		
福島南			1	
福島明成	2		2	2
双葉			3	1
湯本			1	
四倉		1		
若松商業		1		2
茨城県	48	49	30	47
麻生	1			
石岡第一	1	2		
磯原		4		1
磯原郷英	1			
伊奈		2	1	
茨城				1
茨城キリスト教学園	2	2	1	4
ウィザス	3	7	1	1
牛久	2			1
牛久米進		1	1	
太田第一			1	
鹿島		3	4	1
鹿島学園	1			
勝田				1
勝田工業	1	1		1
神栖		1		
古河第一	1			
境	1			1
佐竹			2	
佐和				1
下館工業			1	
下館第一	1	1		
下館第二	2			
下妻第一	2	1	1	3
常総学院		1		
翔洋学園	1	1		2
水城	6	5	1	
総和	1			
多賀	1	3	1	3
玉造工業			1	1

高校名	1年	2年	3年	4年
つくば開成	2	2		1
つくば工科	1	1	2	3
つくば秀英	1	2	2	1
土浦工業			1	1
土浦湖北			1	
東洋大学附属牛久	1			1
波崎		1	2	
波崎柳川	3		2	
日立北	2			4
日立工業	1			1
日立第一	1			
日立第二		1		
鉾田第一	2	2		
水戸葵陵			1	
水戸工業	1	1	1	7
水戸商業				2
水戸第二	1			
水戸短期大学附属	1	1		
緑岡	2			1
明秀学園日立		2		2
八千代			1	1
電ヶ崎第一				1
ルネサンス	1	1		
栃木県	26	29	24	30
足利			1	1
足利工業			1	
足利工業大学附属	1			
足利南			2	
石橋	1			
今市		1	1	1
氏家				1
宇都宮			1	
宇都宮北	1	1		
宇都宮工業	1	1	1	2
宇都宮清陵	3	4	3	2
宇都宮短期大学附属	1			1
宇都宮白楊	3	3	1	5
宇都宮東			1	
大田原	1	1		
大田原女子	1		1	
小山				1
小山西	1			
学悠館		1		
鹿沼			1	
鹿沼東	1			3
烏山		1	1	
黒磯		1		1
黒磯南	1		1	1
國學院大學栃木	2	5	1	1
作新学院	1	5	2	5
佐野		1		
佐野松陽			1	
佐野日本大学	1			1
栃木女子	1			
那須清峰			1	
那須拓陽				1
白鴎大学足利		2		
日々輝学園	4		1	
文星芸術大学附属	1			
真岡		1	1	
真岡女子			1	
茂木	1			2
矢板東				1
群馬県	25	40	27	28
伊勢崎(県立)	1		2	
伊勢崎興陽				1
伊勢崎清明		1		
太田		2		
太田工業	1		1	
太田女子		1		
太田東	1	1		
学芸館	1			
共愛学園			1	1
桐生市立商業	2		1	1
桐生第一	3			
桐生南	2			
渋川		2		
渋川工業				1
渋川女子			1	
樹徳		1		
勢多農林				1
高崎	1			
高崎北	1	1		
高崎健康福祉大学高崎		4	1	
高崎工業		2		
高崎商科大学附属	1			2

高校別在学学生数一覧

高校名	1年	2年	3年	4年
高崎東			1	1
館林	2	4	3	2
館林商工		1	1	
東京農業大学第二	2	1		4
利根商業				1
富岡		3		
中之条			1	
新島学園	1			1
沼田	1	2	2	
沼田女子		1		2
藤岡中央		1	2	
前橋(市立)		1	1	
前橋育英	1	1		2
前橋工業	1	3	2	2
前橋商業		1		
前橋清陵			1	
前橋西		1	1	1
前橋東		3	1	
前橋南	1	1	2	2
明和県央	2		1	3
吉井			1	
上記以外の高等学校等		1		

埼玉県	20	19	10	13
いずみ				1
伊奈学園総合		1		1
岩槻			1	
浦和実業学園	1	1	1	
浦和東	1			
大宮開成	1	1	2	
開智		1		
春日部共栄		1		
春日部工業	1			
川越工業			1	
久喜北陽	1			
熊谷				1
越谷西		1		1
越谷南				1
埼玉平成		1		
栄北	1	1		
坂戸	1			
志木				1
秀明		2		
城西大学付属川越		1		
正智深谷	1			
杉戸	1		1	
杉戸農業				1
西武台	1		1	
聖望学園	3			
草加南		1		
秩父	1	2		1
東京成徳大学深谷	1			1
東京農業大学第三	1			1
新座総合技術	1			
花咲徳栄	1			1
羽生第一				1
武南		1		
星野		1		
本庄東		2	1	1
松山	1		1	
与野		2		
和光国際	1			

千葉県	10	10	19	11
我孫子		1	1	
我孫子二階堂				1
市原中央			2	
柏(市立)			1	
柏井			1	
柏中央			1	
敬愛学園	1			
京葉工業	1		1	
佐倉南			1	
佐原	2	1		
志学館高等部	1			
清水			1	
匝瑳			1	
館山総合		2	1	3
千葉経済大学附属	1			2
千葉工業	1		1	1
千葉商科大学付属			1	
千葉西		1		1
千葉日本大学第一			1	
銚子(市立)		2	3	1
銚子(県立)	1			
東総工業				1
長狭				1
成東	1	1		

高校名	1年	2年	3年	4年
船橋芝山		1		
幕張総合	1		1	
八千代松陰			2	

東京都	120	135	83	127
足立	1	1		
足立学園	1			
井草		1		
郁文館	2	2		
岩倉		2		
穎明館		1		
桜美林		1		
青梅総合			1	
大崎	3			
大森学園	4	4	3	1
小川	6	4	3	2
科学技術		1	1	5
科学技術学園	5	1	2	1
片倉	1	1		
浦田	1			1
関東国際	1			
清瀬	1			
桐ヶ丘			1	
錦城学園	1	1		
九段			1	
国本女子		1		
蔵前工業		1	3	7
京華		2	2	1
京北				1
小岩	1			
工学院大学附属	3	1	2	2
攻玉社		1		
工芸				1
佼成学園				1
江北				1
國學院大学久我山		2		
国士舘		2		
小平南		1		
狛江	1	3		3
駒込	1			1
駒沢学園女子		1	1	
駒場学園		3		4
桜丘	1			
桜町	1	1	1	1
品川エトワール女子	1			
忍岡		1		
芝				2
芝浦工業大学			2	1
下北沢成徳	1			
自由ヶ丘学園	1	3	3	3
十文字	1			
淑徳	1	1		1
順天	1			
松蔭		2		
翔陽			3	
昭和				1
昭和女子大学附属昭和	1			
昭和第一学園			2	1
昭和鉄道		1		
新宿山吹				1
神代		1		2
杉並学院			1	1
墨田川				2
駿台学園	1			
聖学院	4	1		
成城			1	
成城学園	1		1	
正則	2	2		1
正則学園			2	
青稜	1			
世田谷学園	1			
創価		1		
総合工科	1	3	3	
大成	3		1	2
大東学園	2	1	1	
立川			1	
橋		1		
玉川				1
玉川学園高等部	1	1	1	
多摩工業		1		
多摩大学日黒		2	1	
調布南	1			1
筑波大学附属駒場			1	
つばさ総合				1
鶴川		1		
帝京八王子				2
田園調布	3	4		1
東海大学菅生	1	1		

高校名	1年	2年	3年	4年
東海大学付属高輪台	1			
東海大学付属望星	2			
東京	1	1	2	2
東京学園	4	2	2	2
東京工業高専				2
東京実業	5	2		2
東京女子学院		1		
東京女子学園	1			
東京成徳大学		1	1	
東京大学教育学部附属		1		
東京電機大学		1		
東京都市大学付属				1
東京都立工業高専				1
東京都立大学附属				3
東京農業大学第一	2		1	1
桐朋		1	2	
東洋英和女学院高等部				1
豊島学院	1	1		
獨協		2		
豊多摩		1		
中野工業			1	
永山				1
成瀬		2	2	4
二松學舎大学附属				2
日体荏原			1	2
日本工業大学駒場	9	9	4	2
日本放送協会学園	1			1
日本学園	1			3
日本大学第三	3	5	2	
日本大学第二				1
日本橋		1		
練馬				2
農芸	1	2		
八王子	1			3
八王子実践	2			2
東			1	3
東村山		1		
東大和			1	
東大和南		1		1
一橋				1
日野	1			1
日野台			2	
広尾	1			
深川	1		1	
深沢		1		
富士森	2	1	1	
府中		1		
府中工業			1	2
府中西		2		
府中東			1	
福生	1			
文化女子大学附属杉並				1
文教大学付属		4		1
朋優学院	1			
保善	2	4		2
町田	1			
町田工業	2	3	2	3
松が谷		2	1	1
三田	1			
三鷹		1		
向丘				1
武蔵丘		1		
村田女子			1	
明治学園				1
明治大学付属中野八王子			1	
明星			3	1
明法	1			
目黒(都立)	2			
目黒学院		2	1	4
紅葉川				1
八雲学園	1			
山崎	1	2	3	
雪谷	1	1	2	
立正		1		
両国	1			
芦花		2		4
六郷工科			1	1
六本木		1		
若葉総合		1		
和光			1	1
和洋九段女子	1			
上記以外の高等学校等		1		

神奈川県	559	580	444	495
愛川	5		3	3
相原		3		
麻生	3	2	1	1
麻生総合	3			4

高校名	1年	2年	3年	4年
旭	5	2	5	4
旭丘	4	1	1	
麻布大学附属淵野辺	3	6	2	
麻溝台	2			1
足柄		3	7	5
厚木	1			
厚木北	5	11	6	4
厚木商業	5	7	10	8
厚木清南	5	5	4	7
厚木中央		1	1	1
厚木西	3	20	7	7
厚木東	7	5	3	8
綾瀬	10	5	6	6
綾瀬西	6	4	2	
新磯		5	2	1
有馬	8	1	5	7
アレセア湘南	2	1	2	1
生田	4	3		1
生田東	5	2	3	4
伊志田	9	7	7	10
伊勢原	16	12	8	5
磯子	1	2	1	
磯子工業	1	3	1	2
市ヶ尾	1	2	3	
岩戸				1
荏田	2	4	1	4
海老名	2	4	2	1
大井	2		4	2
大磯	1		1	1
大楠				1
大清水		1	2	2
大西学園			2	
大秦野				4
大原	7	3	3	3
大船			3	
岡津				3
小田原		1		
小田原城東				3
小田原城北工業	5	10	14	9
小田原総合ビジネス	6	1	2	
追浜	1			1
海洋科学	2			
柏木学園	8	1		
金井	7	6		2
神奈川学園	1	1		
神奈川工業	9	7	3	9
神奈川総合				1
神奈川総合産業	20	20	13	14
金沢			1	1
金沢総合	4	1		2
鎌倉学園			2	1
鎌倉女子大学高等部	1			
釜利谷		1		
上郷			2	4
上鶴間	7	7	5	6
上溝	5	3	5	8
上溝南	3	3	5	1
上矢部	3	1		2
川崎(市立)	2	3	1	
川崎(県立)	2	1	1	2
川崎北	3	2	2	4
川崎工科	5			
川崎工業		2	5	2
川崎市立商業		1	1	
川崎総合科学	8	12	6	9
神田		3		2
関東学院		1		1
関東学院六浦	1		1	1
岸根	7	2	1	3
北鎌倉女子学園	1			
霧が丘	4	5		5
鶴沼	2	1	1	1
久里浜				1
栗原			2	1
慶應義塾				1
向上	10	14	7	5
港南台				1
港北	1		1	1
光陵	1		1	
五領ヶ台			3	
相模大野	2		1	
相模女子大学高等部			1	
相模田名	5	4	3	7
相模原(県立)	1	1		
相模原(私立)	7	8	10	7
相模原青陵	10			
相模原総合	9	9	4	5
桜丘		1	1	

高校名	1年	2年	3年	4年
座間	3	2	2	1
座間総合	2	2		
寒川	2	6	3	
サレジオ学院		1		
自修館	1	1		1
七里ガ浜	2			
商工	5	6	2	5
湘南				1
湘南学院	1	5	1	3
湘南工科大学附属	3	2		7
湘南台	1	1	2	2
松陽	2	1		2
城郷	3	3	1	
城山	3	7	4	6
新栄		2		1
新城	1		1	
菅	6	10	6	6
住吉	1	2	2	3
逗葉		2	1	2
聖光学院	1			
星槎		1		
西湘	1	2	1	3
聖セシリア女子			1	
聖和学院			1	
瀬谷	3	1	2	2
瀬谷西	2	4	2	2
相武台		4	8	9
相洋	7	6	4	10
大師		3	1	1
高木学園女子	1		1	1
高津	2		5	3
高浜	4	1		1
橘	2	1	1	
橘学苑		1		
立花学園	4	3	5	6
田奈	1			
茅ヶ崎	5	11	1	3
茅ヶ崎西浜	6	2	4	2
茅ヶ崎北陵				1
中央大学横浜山手		1		
中央農業	1	6	2	2
津久井	2	3	3	2
津久井浜	1	3	1	2
鶴見		3		1
鶴見工業				1
鶴見総合	1	2	1	1
鶴見大学附属	2			
鶴巻		3	1	4
桐蔭学園	1	3	3	4
東海大学付属相模	1		1	
桐光学園	1	2		
東横学園大倉山				1
藤巻学園藤沢	1		2	3
戸塚	3	1	1	2
永谷	1	1	1	
新羽	1	2	1	1
二宮	8	11	9	3
日本大学	1			1
日本大学藤沢	2	3	1	
白山	2			1
柏陽		1	1	
橋本	4	2	3	4
秦野	2	1	1	
秦野総合	4	4	1	1
秦野曽屋	8	3	6	11
秦野南が丘		1		4
東		1		1
氷取沢		2	1	1
ひばりが丘		1	1	1
平塚学園	3	7	3	4
平塚工科	21	24	18	15
平塚江南				1
平塚商業			1	
平塚湘風	3			
平塚農業			1	
深沢	2		1	2
藤沢				2
藤沢工科	8	6	9	5
藤沢翔陵	4	6	2	9
藤沢清流	3			
藤沢総合	6	1	2	
藤沢西	1		2	
武相	2	5	2	3
二俣川看護福祉		1		
法政大学第二	1	1	2	1
保土ヶ谷		2		
舞岡		8	3	2
三浦学苑	2	2		1

高校名	1年	2年	3年	4年
三浦臨海	1	3	1	
聖園女学院	1	1		1
みなと総合		2		
南	1			
向の岡工業	2	1	3	3
六ツ川				5
元石川	3	3	2	2
弥栄		1		
弥栄東				1
山北	3	3	5	5
山手学院		1	1	
大和	1	1	1	
大和西	3	1	2	
大和東	2	11	7	7
大和南	9	5	8	3
百合丘	2	2		2
横須賀(県立)		1		1
横須賀大津	2	2	1	
横須賀学院	1			2
横須賀工業	6	1		2
横須賀総合	1	4	2	1
横須賀明光	1			
横浜	2	13	8	7
横浜英和女学院	2			
横浜桜陽		3	5	1
横浜学園	3	1	2	2
横浜旭陵	7	2		5
横浜国際		4	3	
横浜国際女学院翠陵				1
横浜修悠館	3			
横浜商科大学	6	6	7	10
横浜商業	1	2	1	2
横浜女学院			1	
横浜翠嵐		1		
横浜清風	3	4	2	
横浜清陵総合	2	1	1	
横浜創英	1	3	4	2
横浜創学園	1	7	3	7
横浜立野	3		1	
横浜南陵	1	3	2	1
横浜隼人	7	8	8	6
横浜平沼	1			
横浜富士見丘学園	1			
横浜緑ヶ丘	1			
横浜緑園総合	3	2	1	
吉田島総合	1			
吉田島農林		2		
上記以外の高等学校等	1	1		

新潟県	26	41	25	40
糸魚川	1	1	1	
糸魚川白嶺		1		
小千谷		1		2
柏崎		1		
柏崎工業		1		
柏崎常盤	1	2		
加茂	2		1	1
加茂農林			1	
小出	1	1		1
高志				1
五泉				1
佐渡				1
佐渡総合		1	1	
三条			1	
三条商業		1		
三条東		1		
塩沢商工			1	
新発田中央				3
新発田南			1	1
上越				1
上越総合技術	1		3	3
関根学園			1	
高田				1
高田北城		1	1	1
中越	3	1	2	
津南				1
燕		1		1
帝京長岡	1			
東京学館新潟				2
十日町	1	1		2
十日町総合				1
直江津	1	1	1	
長岡	1			
長岡大手	1			
長岡工業	3	8	1	2
長岡工業高専		1		
長岡向陵	1	3		1
新潟県央工業			1	

高校名	1年	2年	3年	4年
新潟工業	1		1	
新潟江南		1		
新潟産業大学附属		1		
新潟第一	1			1
新潟中央		2	1	
新潟西		1		2
新潟明訓		1		
新津	2			
日本文理		2	3	2
万代				1
分水	1	1		1
北越				2
巻				2
巻総合			1	
六日町	2	1		1
村上		2		1
村上桜ヶ丘	1			
両津		1	2	

富山県	5	4	2	11
魚津	1			1
片山学園	1			
桜井	1			
新湊		1		
大門				1
高岡工業				1
高岡商業				1
中央農業				1
富山いづみ		1		
富山第一		1		
富山南	1			1
入善	1		1	2
氷見				1
伏木				1
不二越工業		1		
水橋				1
八尾			1	

石川県	6	2		1
金沢泉丘		1		
金沢桜丘		1		
工業(県立)	1			1
小松工業	1			
日本航空高等学校石川	1			
羽咋	2			
北陸学院	1			

福井県	1	1	1	
金津	1		1	
若狹		1		

山梨県	34	43	22	36
石和	1	2		
市川		1		2
上野原	1		1	1
塩山	1	2	1	2
桂	8	12	3	5
甲府工業	1	2	4	4
甲府城西		1		1
甲府昭和	3		2	3
甲府第一	3	2		2
甲府東		1	1	1
甲府南	1			1
甲府湯田			1	
甲陵			1	
巨摩	1	1	1	2
白根	1	1		1
中央		1		
都留		1		
日本航空	1	1		1
韭崎	1	1		2
韭崎工業	1		2	
農林			1	
日川	2	5		
富士河口湖	3	4		3
富士北陵	2	3	1	1
北杜			1	2
身延	1		1	2
谷村工業		1		
吉田	2	1	1	

長野県	61	62	43	59
赤穂	2	1	2	
飯田	3			
飯田工業	1	1		
飯田風越	1	3		
飯山北				1
飯山南				1

高校名	1年	2年	3年	4年
池田工業			1	
伊那北	1			
伊那西	1			
伊那弥生ヶ丘		2	2	4
岩村田		1	1	2
上田染谷丘	1	1		1
上田千曲		5	2	3
上田西	1	1	1	
上田東	2	2	3	8
大町	1	1		
岡谷工業	4	8	1	1
岡谷東	1			
岡谷南				2
上伊那農業		4	2	1
木曽				2
北佐久農業	1			
小海	2	1		2
駒ヶ根工業	4	5	2	1
小諸		2		
小諸商業				1
佐久長聖			1	1
さくら国際		1		
篠ノ井		1	1	1
下諏訪向陽	4	3		2
須坂			1	
須坂園芸	1	1		
須坂東			2	1
諏訪清陵	1	1		1
諏訪二葉			2	1
田川				2
豊科	1			
長野工業	3	9	7	6
長野俊英		1		1
長野商業	1			
長野清泉女学院	1			
中野西	3	3		3
長野日本大学			1	
長野東	1		2	
長野南				1
野沢北			1	
野沢南		2	2	1
文化女子大学附属長野	1			
北部	2		1	
松川	1			
松代	2		1	
松本蠟ヶ崎	2		1	1
松本工業	4	1	3	3
松本筑摩	1			
松本美須ヶヶ丘	1			
丸子修学館	1			
南安曇農業	1			3
箕輪進修	2			
望月	1			
屋代		1		1

岐阜県	2	3	1	2
大垣西			1	
可児工業		1		
岐阜総合学園		1		
多治見西	1			
中津		1		
羽島北	1			
本巣松陽				1
古城				1

静岡県	144	197	105	118
熱海		1		
伊豆総合	8			
伊豆中央	2	2	1	2
伊東	8	9		1
伊東商業			1	
稲取		1	4	1
庵原	2	4		1
磐田北		1		
磐田西		1		1
磐田東	2	3	3	3
磐田南		1		
オイスカ		1		1
大井川	2	5		
大仁		4	2	
小笠				1
小山	2	6	4	3
科学技術	10	6	3	
掛川工業	2	4		4
掛川西		1	2	
掛川東				2
加藤学園	4	9	3	2
加藤学園暁秀	1	2	1	

高校別在学学生数一覧

高校名	1年	2年	3年	4年
金谷				1
興誠			1	3
国際開洋第一		2		
湖西				1
御殿場	5	8	3	3
御殿場西		1		
御殿場南	2	6	1	
相良	1			
静岡学園	1	4	1	
静岡北	1		1	
静岡県富士見	4	2		1
静岡工業				1
静岡サレジオ		2		
静岡城北			2	
静岡市立		2	1	
静岡聖光学院	1	3		
静岡大成			1	
静岡中央		2	1	
静岡西	1	1	2	2
静岡農業	1			
静岡南				1
島田	1	1	3	
島田工業	1		2	1
島田樟誠			1	
清水工業				3
清水西	3	1	1	
清水東	1			1
清水南		1		
下田	2	4	3	
下田南				1
修善寺工業		13		8
城南静岡	5			
裾野			3	1
星陵	2	4	3	2
聖隷クリストファー			1	1
田方農業		1		
天竜林業	1	1		
桐陽	2	1	2	1
常葉学園菊川		1	2	1
常葉学園橘		4	2	5
日本大学三島	1	1		
沼津工業	11	12	7	9
沼津商業	1	1		
沼津城北	9	6	7	2
沼津市立沼津	1	4	1	2
沼津中央	2	4	1	1
沼津西	3	4	1	1
沼津東	1		1	
榛原	1	1		3
浜名	1		1	
浜松江之島		1		1
浜松大平台	1		1	
浜松開誠館		1		
浜松学芸		1		1
浜松工業			2	3
浜松湖東	2	2		
浜松湖南	1	1	1	
浜松商業				1
浜松城北工業				1
浜松西			1	1
浜松日体		1		1
浜松南	1		1	
飛龍	2		1	
富岳館	2	2	1	
藤枝北	1			
藤枝西		3		4
藤枝東		1		
藤枝明誠	1	1		
富士市立吉原商業	1			
富士宮北	5	2	2	2
富士宮西	4		1	1
富士宮東	2	1	2	3
富士東		1		
松崎	1			
三島	1	1	1	2
三島北		2		1
三島長陵	1			3
三島南	1	3	1	1
三ヶ日			1	1
焼津中央	1	2		
古原	2	6	4	3
吉原工業	5	6	5	10
愛知県	9	3	7	3
愛知教育大学附属			1	
熱田			1	
春日井南	1			
刈谷北	1			

高校名	1年	2年	3年	4年
国府	1			
桜丘		1		
新城東	1			
成章		1		
中京大学附属中京			1	1
知立			1	
東邦			1	
豊橋工業			1	
豊橋東		1		
中村				1
名古屋経済大学市邨			1	
名古屋南	1			
日進西	1			
丹羽				1
御津	2			
名城大学附属	1			
三重県	5	6	2	4
暁	1			
いなべ総合学園				1
川越			1	1
神戸		1		
桑名西				1
皇學館	1			1
鈴鹿	1		1	
高田		2		
津東	2			
松阪		1		
三重		2		
滋賀県	3			1
近江				1
国際情報	1			
長浜	1			
米原	1			
京都府	1			
洛陽工業	1			
大阪府		9	2	3
大阪電気通信大学		1		2
向陽台		6	2	
寝屋川				1
八洲学園		1		
早稲田摂陵		1		
兵庫県	4	3	5	
明石城西		1		
三田松聖	1			
洲本実業			1	
星陵	1			
宝塚西		1		
滝川第二			1	
長田		1		
西脇工業			1	
福崎	1			
三木北			1	
社	1		1	
奈良県	1			
奈良大学附属		1		
和歌山県		1		1
新宮		1		1
鳥取県	1	3	2	
倉吉西		2	2	
境	1			
米子工業		1		
島根県		2	1	4
出雲				1
出雲北陵			1	
開星				1
益田				2
松江東		1		
安来		1		
岡山県	2	4	3	4
井原	1			
岡山芳泉			1	
岡山理科大学附属				2
落合				1
倉敷工業	1			
倉敷古城池				1
西大寺		1		
総社			1	
総社南		1		

高校名	1年	2年	3年	4年
津山		1		
新見		1		
水島工業			1	
広島県	5	7	5	5
五日市		1		
尾道北		1		
尾道東	1			
賀茂				1
中村			2	
近畿大学附属福山			1	
世羅	1			
崇徳				2
大門		1		
忠海	1			
広島			1	
広島県瀬戸内	1			
広島工業大学				1
広島城北		2		
広島新庄			1	
広島なぎさ	1			
三次		2		
安古市				1
山口県	1	1	4	2
華陵			1	
新南陽			2	
誠英	1			
高川学園				1
高水		1	1	
山口県桜ヶ丘				1
徳島県	1		1	2
小松島	1			
徳島東工業			1	
富岡東				1
鳴門				1
香川県		1	4	2
英明		1		
香川中央			1	1
観音寺第一			1	
尽誠学園				1
高松工芸			1	
高松商業			1	
愛媛県	2	2	4	2
今治工業			1	
今治東			1	
宇和島東	1			
新居浜西				1
新田			1	
松山北		1		
松山中央		1		1
松山南	1		1	
高知県		4		2
安芸		1		
高知				1
高知学芸		1		
高知工業		1		
高知南				1
須崎		1		
福岡県	5	7	1	3
育徳館		1		
大牟田				1
九州国際大学付属		1	1	1
自由ヶ丘	1			
青豊		2		
泰星	1			
筑陽学園	1			
東筑				1
福岡工業		1		
福岡大学附属大濠	2			
山門		2		
佐賀県		1	1	3
弘学館				1
佐賀北				2
東明館		1		
鳥栖			1	
長崎県	3	2		1
苓岐		1		
川棚			1	
佐世保中央			1	
長崎北		1		

高校名	1年	2年	3年	4年
長崎南山				1
長崎日本大学		1		
熊本県	2	4	1	3
天草	1			
九州学院		1	1	
熊本マリスト学園				1
翔陽				1
玉名		1		
東海大学付属第二		1		1
東稜		1		
文徳	1			
勇志国際		1		
大分県			1	5
大分雄城台				2
大分東明				1
大分南				1
情報科学				1
竹田			1	
宮崎県	8	9	8	7
小林		1		1
佐土原	1			
高千穂	1			
高鍋			1	
日南	1			
日章学園九州国際			1	
延岡	1			
延岡工業		1		
日向学院			1	
日向工業		1		
鵬翔				1
都城泉ヶ丘			1	
都城工業	1			
都城西	1			
宮崎北		1	1	1
宮崎工業	2	2	2	3
宮崎商業			1	
宮崎西				1
宮崎南		3		
鹿児島県	4	6	3	1
池田学園池田		1		
頤娃	1			
沖永良部			1	
鹿児島玉龍		1		
鹿児島実業	1		1	
鹿児島情報				1
鹿児島第一		2		
加治木		1		
鹿屋	1			
志布志		1		
松陽			1	
屋久島おおぞら	1			
沖縄県	8	11	9	10
浦添		1		
沖縄工業	1		4	2
沖縄尚学	1	1		
小禄	1			
興南	2	1	1	3
コザ		1		1
首里東	1	1		
昭和薬科大学附属	1			
那覇			1	
那覇国際				1
那覇西			1	1
南部工業		1		1
南風原				1
普天間		1		
辺土名		1		
北山			1	
前原		1		
宮古工業	1	1		
八重山商工		1	1	
その他	38	33	26	29
外国の学校等	24	18	16	16
高校卒業程度認定試験・大学入学 専修学校の高等課程	14	15	10	11
ろう特別支援	1			

海外研修プログラム 実施報告

現在、3つの海外研修科目と1つの正規留学プログラムがあります。このうち正規留学プログラムは、航空宇宙学専攻の学生を対象としたもので、自家用飛行機の免許取得も可能であり、現在、航空宇宙学専攻1期生11名がグリーンリバーコミュニティカレッジにおいて奮闘中です。ここでは昨年度実施された3つの海外研修プログラム（海外機械工学研修I、同II、海外航空宇宙学研修）に関して報告します。

まず海外機械工学研修IIですが、この科目は、3年後期の半年をサウスシアトルコミュニティカレッジ（SSCC）に留学するもので、大学を休学することなく半年間の留学が体験できる本学独自の特色ある科目です。なお、留学先のSSCCが4学期制であるため、秋学期と冬学期を同カレッジで学ぶこととなります。昨年度は2名の学生が参加しましたが、彼らはいずれも、秋学期はESLの集中授業を受講し、冬学期はレギュラーコース科目（自動車整備関連科目）を受講しました。彼らの成果発表会はこの5月に行われたのですが、留学前に比べると格段に流暢となった英語で素晴らしいプレゼンテーションを披露してくれました。そこで英語上達の秘訣を彼らに尋ねたのですが、彼らはいずれも「会話をすることが英語上達の近道です」と言っていました。またこのため、半年間のホームステイをする当該科目は、そのような四六時中英語を話す環境として最適であるとのことでした。なお、私が彼らと話しながら印象深かったのは、日本人以外の友達と遊ぶように努めると、遊びさえもが英語、特に一番大切な会話の勉強になると言うことでした。当たり前なのですが、このような環境が手に入るの、この科目ならではのメリットであると感じました。

次に海外機械工学研修Iと海外航空宇宙学研修ですが、こちらは、毎春休みに、やはりSSCCで開講される4週間の短期研修プログラムです。両者ともに、3週間のESLプログラムと1週間の専門科目実習が実施されます。昨年度は合わせて12名の学生が参加しました。なお、この2科目の成果発表会もこの5月に行われたのですが、その中で1人の学生が興味深い体験を語ってくれました。彼は、最初の1週間、ホストファミリーとのコミュニケーションの難しさから、自分の部屋に閉じこもり日本に帰りたくなったそうです。しかし、「それでは来た意味が無い!」と彼は意を決し、なるべくリビングで勉強をし、読書をし、会話はしなくてもホストファミリーのそばに居るように努めたそうです。そうすると、なぜか不思議なことに家の居心地が良くなり、ファミリーの親戚や友人が訪れても元気に挨拶が出来るようになっていったそうです。

この文章を読んでいる学生のみなさん、ぜひとも自分の殻を破って海外研修に行ってみませんか?!きっと、新たな自分、少し成長した自分を見つけられると思います。

（文責：機械工学科講師／中根一朗）



海外航空宇宙学研修の講義風景



海外航空宇宙学研修の実習風景

53名の学生がJコースを修了

「国際的に自立した科学技術者」を育成することを教育の目標として、機械工学科では2002年度入学生から「グローバルエンジニアコース（Jコース）」を設けました。JコースのカリキュラムはJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けおり、修了すると技術士の一次試験が免除され、「修習技術者」の資格が与えられます。2010年度は、53名の学生がJコースを修了しました（卒業式が中止になったため、修了証書を手渡すことができませんでした）。

（文責：機械工学科准教授／有川敬輔）

航空宇宙学専攻に永尾 陽典 教授 着任

機械工学科では、平成21年4月から航空宇宙学専攻を立ち上げ、1年生から3年生まで各学年約30名の学生が日夜勉学に励んでいます。今年度は本学との協定校であるアメリカのシアトル近くにあるGRCCに3年生11名が留学し、英語漬けの環境の中で勉強しています。そのような学生の頑張りに応え、彼らの能力をより伸ばすために、この4月から永尾陽典教授をお迎えしました。今回は、永尾教授についてご紹介します。永尾教授は大学卒業後、川崎重工（株）ジェットエンジン事業部で英国製エンジンの国産化設計に携わり、その後富士重工（株）で日本の宇宙往還機であるHOPEの概念・基礎設計、機体システム設計等を担当されました。またスペースプレーンの概念設計、構造設計を担当されました。8年前に、JAXAに移られ、軽量かつ高強度の材料（比弾性率、比強度が大きい材料）として知られるCFRPの衝撃強度や新しい製造方法の研究をしてこられました。CFRPという材料は、航空機の一次構造材料として本格的に使われ始め、従来使用されていたジュラルミンに取って代わろうとしています。衝撃強度を保障するための研究、製造コスト低減のための研究は、現時点では必要不可欠な研究であり、先頭に立ってそれらの研究を指揮してこられた先生です。

このように航空宇宙分野でこれから具体化して行く課題、現在早急に答えを出す問題等に精通された先生ですので、講義等を通じて先生が永年懸けて培ったものが学生に伝えられることにより、学生の勉学意欲が強く刺激され、機械工学科から日本の将来の航空宇宙分野を支える人材が多数育つことが期待されます。

（文責：機械工学科教授／三澤章博）

新任挨拶

今年度から航空宇宙学専攻の教員として着任した永尾陽典です。名前はヨウスケと読みますが、正確に読める人はいません。皆さんは覚えてくださいね。会社や研究所勤めの最前線から一転し、今度は若い皆さんが育っていくお手伝いをします。航空宇宙の世界は多くの先端技術で成り立っていますが、同時に基礎的で確実な技術で支えられています。私の名前のように、他人が読めないような特異な技術は困ります。平易で確実でかつ最新の技術が必要なのです。航空宇宙の分野こそ基礎的なことが強く求められています。さあ、大学で基礎をしっかり身につけましょう。そして私の夢を皆さんが引き継いで下さい。私の技術は全て伝えます。

【専門分野】航空宇宙機構造、複合材料力学、複合材構造の低コスト製造方法
【担当授業科目】航空機構造力学、航空宇宙プロジェクト、航空宇宙機設計



航空宇宙学専攻
教授 永尾陽典

大学院進学^{graduate school}の薦め

本学の学生に大学院進学を勧めると、「研究者になる訳ではないから」とか「勉強が嫌だから大学院は考えていません。」という答えが返ってくることが多いようです。しかし、今や最低限の工学教育を行うためには、産学の共通した認識として、学部4年間で難しく、大学院博士前期課程いわゆる修士課程2年間でプラスした計6年間が必要であると考えられています。その一方、近年就職活動の早期化により、エンジニアとしての能力を身に付ける最も大切な3年次後半から4年次の前半が就職活動に追われ、学部の4年間すら十分に確保できない状況となっています。各課程での出口保証は次のように考えられています。学士は、先生に出された課題を先生の指示する方法で解決できるようになること、修士は先生に出された課題を自分の力で解決できること、さらに博士は自分で課題を見出し、解決できることが求められています。これからも、修士課程修了者を企業が求めているのも頷ける話です。

本学では、このような状況を考え、授業料も国立大学とほぼ同じ、かつ学部の成績が上位8%以内は全額免除、上位15%以内は半額免除という充実した特待生制度を設け、大学院進学への環境作りを積極的に進めています。特に特待生対象学生として選ばれた学生諸君は、これは与えられたチャンスだと考え、前向きに大学院進学を考えてほしいと思います。

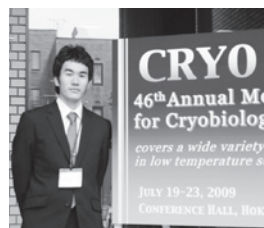
最後に、繰り返しますが、将来エンジニアとして活躍したいと考えているのであれば、修士課程の2年間はエンジニアとしての能力を身に付けるためには必要不可欠な期間であることを再認識し、一つの選択肢として一度は大学院進学を考えてほしいと思います。

（文責：機械工学科教授／鳴海明）

大学院生 長島巧さんが 若手優秀講演フェロー賞を受賞

この春に本学大学院機械工学専攻を終了した長島巧さん（現：エプソン（株）勤務）が日本機械学会熱工学部門（JSME-TED）から部門賞委員会、運営委員会での審議を経て、2010年度1年間を通しての若手優秀講演フェロー賞に選ばれました。対象となった講演は、2010年10月に発表した熱工学コンファレンス2010の「木質バイオマスからの糖抽出方法に関する研究」です。

研究内容は、将来の化石エネルギー枯渇化の観点から現在未利用なバイオマスエネルギーに注目し、環境にやさしい凍結処理と熱水処理を導入することにより非常に難しいと言われていた



木材からのバイオエタノール生成について挑戦的研究をしたものです。同君は、学部の3年生からこの研究をはじめ4年間にわたって、頑張ってきました。おめでとうございます。

（文責：機械工学科教授／鳴海明）

電気工事士試験集中講座

電気工事士の資格取得のための集中講座を開講して3年目になりました。電気設備関係の企業に依頼して例年3月に行っていましたが、震災のため5月に延期になっていました。5月7日(土)、8日(日)、15日(日)の3日間、筆記試験の集中講座を行いました。最近の就職戦線の厳しさからか、電気電子情報工学科から29名、ホームエレクトロニクス開発学科から7名と昨年以上の参加者となりました。筆記試験の合格者に対して、7月9日(土)、10日(日)、17日(日)の3日間、技能試験の集中講座が行われます。技能講習を最大42名まで行うことのできる設備を今年度用意することができました。学生



は無料で参加することができ、空いた時間には練習することが可能です。

2010年度は第一種電気工事士試験に3名が合格し、第二種試験に10名が合格しています。今年度はより多くの学生が資格を取り、就職難の時代を自信を持って乗り越えてほしいものです。

(文責:電気電子情報工学科教授/下川博文)

第一種電気工事士試験に挑戦!

電気電子情報工学科 2年 宮澤 恭佑

中学生の時から電気について興味を持ち始め、電気系の高校に入学しました。高校の時に受験し合格した第二種電気工事士よりも幅広い範囲を取り扱え、将来、電気関係の企業に就職したいと思っていたので第一種電気工事士試験を受験しました。

第一種の筆記試験は大学の授業や、第二種の範囲にはなかったところがあるので非常に苦労をしました。第二種の時よりも学習時間を増やし、過去問題を何回も繰り返しながら学習しました。筆記試験では過去問題と似た試験が出たり、参考書で覚えたところも出たので合格することができました。また、計算問題では授業で行った範囲も出ました。技能試験では、高圧用の器具や太い線など第二種の時には見たこともない物を使うのでかなり戸惑いました。試験では慌ててしまい、重大なミスをしてしまい、一度目は不合格でした。何度も練習をしてミスをしないよう工夫をしたり、本番で慌てなかった結果、二度目の技能試験に合格することができました。

今後、第三種電気主任技術者の取得に向け、さらに学習し、電気について深い知識をつけ、在学中に合格することをめざします。また、卒業研究や就職後に学んだことが生かせれば良いと思います。

“身が引き締まる思いです!!”～入学前教育～

『電気電子入門講座』

電気電子情報工学科の導入教育として、平成19年度より、入学直前の3月に開講している「電気電子入門講座」が震災の影響で延期となり、ゴールデンウィーク中の5月3日～5日の3日間に渡って実施されました。今回は工業高校出身者向けのAコースが20名、普通高校出身者向けのBコースが7名と昨年を上回りました。

Aコースは数学・物理などのいわゆる工学基礎科目について学習し、自信を持って大学生活をスタートしてもらうことを目的としています。内容は、得意な実験から回路現象を学び、EXCELを用いたシミュレーションおよび理論的検討から微分・積分の原理・役割を学んでいく構成となっています。幾分難しい内容ですが、工学基礎科目の必要性を実感してもらうことを目的としています。

Bコースは乾電池と豆電球を繋げて点灯する実験から始め、オームの法則など基礎理論習得、太陽電池の仕組み、音声、半田ごてを用いたマイコン回路製作を行いました。太陽電池を使った実験では、学生の間では最も興味のある分野でとても熱心に実験を行っていました。また、半田ごてを初めて使う学生もたくさんいましたが、回路製作に楽しさを得ている様子が印象的でした。

受講者は熱心に取り組んでおり、多くの学生が“身が引き締まる思いです、これからしっかり勉強しなければ”との感想をもらっていました。今後の勉強の動機付けとなる効果は大きかったと思います。本講座を受講して一定の条件をクリアすると2単位が認定されます。

(文責:電気電子情報工学科准教授 板子一隆)



瑞慶覧研究室 研究成果を 国際会議で発表

研究室の研究成果を第12回国際電気集塵学会(XII International Conference on Electrostatic Precipitation)にて発表しました。学会開催期間は2011年5月9日～13日、ドイツのニュルンベルグという都市で開催されました。論文タイトルは「ディーゼル排ガス中微粒子の静電的除去」。主に船舶用ディーゼル機関の排ガス浄化を目的とした研究結果です。海沿いの町の空気汚染は、停泊中や沿岸を航海する船の排ガスが主な原因の一つであることを知っていましたか?今このことが世界中で騒がれ、規制が強化されています。しかし、それを防止する有効な技術が未だないのが実状です。そんな七つの海を股に掛けた学生の実験成果を世界に向けて発信してきました。独自の排ガス除去方法を採用しており、社会的な重要性和新しい技術の両面から注目が集まりました。本研究は大手電機メーカとの共同研究であり、実用化に向け学生と企業の研究者が丸くなって今年も取り組んでいます。今回の国際会議では、学生と一緒にドイツならビール、フランスならワイン、イギリスならスコッチウィスキー、世界中のお酒の調査研究もしたいと思っています。

(文責:電気電子情報工学科准教授/瑞慶覧章朝)

ニュルンベルグのお城



入学おめでとう 新しい仲間が増えました

今年度の応用化学科には96人の新しい仲間がやってきました。震災の影響で、入学式やオリエンテーションを兼ねた恒例のキャンプも執り行わず、また通年より一週間遅いスタートとなったため、いつもの年度より不安に満ちた始まりとなりました。そんな中で私たち教員も、そのことをいつもよりずっと意識して、授業を通じての友達作りや今後の4年間でしっかりと過ごしていく基礎力(基礎体力)作りを心がけています。

4月の第2週には短い時間でしたがオリエンテーションをおこない、履修の心構えや時間割りの作成の仕方など、きめ細かく指導を行いました。

また1年生は、応用化学科の授業として、「サイエンスコミュニケーション」、「化学基礎演習」、「生命と物質、エネルギー」といった授業を履修しています。サイエンスコミュニケーションでは普段なかなか知り合うことのない仲間との友達関係作りや、会話の大切さを取り上げ、今年は特に身体を動かしながらのコミュニケーショントレーニング、人間関係育成を行っています。早い時期によりよい人間関係(友人-友人、学生-教員)を形成することで、今後の4年間の有意義な学生生活を送ることができます。その土台作りとしての授業を行っています。



ガイダンスの様子、みんな緊張しています。



サイエンスコミュニケーションではみんなと議論を繰り返しコミュニケーションの技術を習得します。砂漠で遭難したらどうするかの議論中です。



生命と物質、エネルギーでの一コマ、自然観察をして、「気づく」ことの重要性を学んでいます。

1年生 合同クラス懇談会開催

新入生には様々な新しいことが始まり、緊張と不安な体験でいつもより時間が長く感じられたかもしれません。そんな4月ももうすぐ終わる、そんな28日の夕刻から合同クラス懇談会が行われました。応用化学科は1クラス12名前後の少ない人数のクラス編制をとっているため、合同クラス会はこのクラスの人と知り合うよいきっかけになります。大学内のカフェテリアを貸し切ったの食事会となりました。学科長である伊熊泰郎教授からの挨拶にはじまり、教員や学生同士の懇談で楽しいひとときを過ごしました。最後はみんなで写真撮影!で幕を閉じました。でも、この時期まで何回も学科長の挨拶をしているのに、次の日には実は、まだ学科長の名前を知らない?!という学生もちらほら。そんなオチがつかました・・。



懇談会では食事とともに、みんなと歓談しました。

海外化学研修に行ってきました



平成23年度より新規科目「海外化学研修I」と「海外化学研修II」が加わります。米国シアトルのSouth Seattle Community Collegeへ短期留学し、化学の知識と国際的なコミュニケーション能力を身につける科目です。この2月に3年生1名、2年生3名、1年生1名の5名が「海外化学研修I」で英語研修(3週間)と化学研修(1週間)を受けるために2月18日にアメリカへ出発しました。シアトルに一ヶ月間滞在し勉強した後、3月18日に無事に帰国しました。2年生で参加した下山由莉佳さんに参加した感想を聞いてみました。

「今回の研修を通して、海外の文化を身を持って感じたと共に、日本製品の多さや、食についても日本文化が受け入れられていること、日々の生活や経済も日本だけでなく世界で回っていることも感じました。そして、積極的さ、分からないことがあったら恥ずかしがらずに聞く、という事が身についたと思います。とても楽しく英語を学べ、貴重な体験を沢山出来たと思います。」(2年 下山由莉佳)

たった一ヶ月の研修でしたが、各人が貴重な体験をしたのではないのでしょうか?参加した学生は一回りも二回りも大きくなって帰国してきました。帰国後の5月30日には、「海外化学研修」の報告会が行われ、4名の学生がパワーポイントを使い、各20分ずつ発表がありました。実験中の写真やホームステイ先家族との写真を交えながら4週間の研修内容を余すところなく発表しました。初めての海外という学生もあり、日本との習慣等の違いにことまどいながらも得ることも多かった研修のようでした。報告会には1年生も参加しており、先輩方の発表を興味深く聞いており、早く参加したい様子でした。

今回の研修に参加した教員の川嶋良章教授からの一言です。
「今回の研修で、アメリカの生活や文化について肌で触れることで、文化の違いのみならず、日本のことを改めて考えるようになったと思います。3週間の英語研修の後、分子模型の作成、食酢の定量、ビタミン剤に含まれる鉄の定量などの実験を5日間行い、その間にも二つの研究施設(マリアアとがんの研究)を見学しました。次年度からは有機合成の実験テーマを要望したいと思っています。」



2010年度 ベストティーチャー賞!

応用化学科では毎年、授業評価や学内業務、研究等の評価を参考にベストティーチャーを2名選んでいます。今年は、小島博光教授、柴山隆之教授がベストティーチャーに選ばれました。受賞にあたって、講演会が開かれ、授業のあり方について活発な議論が行われました。顕著な活躍をされたお二人には記念品が贈呈されました。



今年のベストティーチャー小島教授(左)、柴山教授(右)と学科長伊熊教授(中央)

平成22年度 成績優秀者とハイアクティビティ賞

平成22年度に活躍した学生や成績の優秀な学生に記念品の授与が行われました。これからもしっかりと頑張ってくださいね。2年次の成績優秀な学生に選ばれた小松千波さん(現3年生)にお話を伺いました。すばらしい感想をいただきました。「テストでは常に100点(気持ち的には120点!)をとれるようにがんばってきました。今回、成績優秀者に選ばれて感激しています。さらに気を引きしめて勉学に励んでいきたいと思います。」

成績優秀者は以下の通りです。

1年生:平野貴也さん、渡邊早貴さん、
塩成博国さん

2年生:小松千波さん、田中栄作さん

3年生:赤穂英明さん、稲垣孝一さん

最優秀課外活動賞には自転車部の十二村拓末さん、航空研究部の佐藤礼菜さんが受賞しました。

今後のますますの活躍に期待します。



成績優秀者の小松千波さん(左)と田中栄作さん(右)です。

自動車システム開発工学科

FACULTY OF CREATIVE ENGINEERING VEHICLE SYSTEM ENGINEERING

新入生のための
フレッシューズガイダンス

当初予定されていた本学科新入生のためのフレッシューズキャンプは、静岡県伊東市で1泊しながら、ガイダンス、クラス懇談会、相談コーナー、プロジェクトチーム紹介、ビンゴ大会等を行い、翌日、建設機械メーカーでデモ走行を見学したり、大型車両に触れてみたりすることになっていました。しかし、例年続けてきたこの行事も残念ながら東日本大震災の影響で中止となり、今年度は4月13日にフレッシューズガイダンスとして学内で実施されました。学科の全教員と1年生のクラス担任の教員、10名の上級生の学生スタッフが担当し、新入生がスムーズに大学生活に馴染めるように計画しました。

当日は、朝9時半に学科ガイダンスから始まり、何でも相談コーナー、競技プロジェクトチーム（フォーミュラカー、燃料電池車、ソーラーカーを学生が設計、製作するプロ

ジェクトチームや『流れの不思議展』の実施を支える学生スタッフ）の紹介までを午前中に行い、クラス毎に分かれて昼食をとりながらクラス懇談会、そして学内見学ツアー、模型車両コンテストを行いました。模型車両コンテストでは、輪ゴムを動力として、模型車両を1.5m走らせる速さを競いました。4名程度のグループに分かれ、グループの中で相談しながら、1台の車両を作ります。悪戦苦闘しながら、何とか完成した車両を壇上の机で走らせました。時間内に完成するのは大変だったようで、完走しない車両もありましたが、かなり速く走る車両もありました。



模型車両コンテストの車両製作中



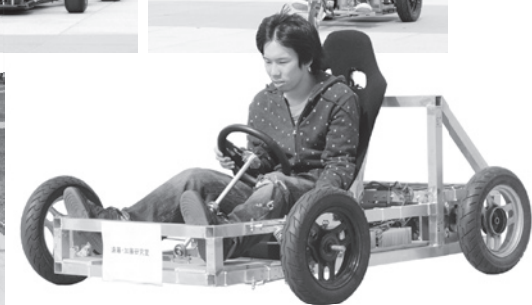
輪ゴムを動力として1.5mを走らせる速さを競う

完成した車両を壇上で走行。
コメントをインタビュープロジェクト授業で
開発した車両の走行会

自動車システム開発工学科では1年生から3年生までの3年間で自動車を題材にした体験型教育の軸としてプロジェクト授業を行っており、今年で4年目を迎えました。3年生の最終段階ではこれまでの2年間で培ってきたプロジェクト授業の集大成として車両開発に取り組んでいます。これは学生が8名程度のグループになって各研究室に所属したうえでそれぞれの専門分野を活かした設計開発を行い、実際に人が乗って「走り、曲がり、止まる」車両を製作します。

その開発の成果報告を兼ねて、去る4月30日に本学中央緑地公園で多くの関係者や新入生、在学生たちが見守る中で走行会を開催しました。当日は強風ではありましたが晴天に恵まれ、12チームが開発した車両のコンセプト紹介を交えながら大変に楽しい雰囲気で行うことができました。中でもフューエルセル、ソーラーエネルギー等のエコ対応をはじめとした、将来、技術へ繋がる可能性を秘めた車両の走行には参加者の大きな関心を集めていました。

このプロジェクト授業を受講した学生の多くはチームとしての意味や、理論と実際のギャップなど、普段の授業や教科書からでは得られないこと、ものづくりの体験を通してのみ得られる大切なことを達成感を伴って学んだのではないのでしょうか。



新任のご挨拶

平野宏です。5月16日に神奈川工科大学に特任教授として着任いたしました。今まで、自動車会社、大学、部品メーカーにおいて、米国、日本、ドイツを拠点とし、21年間、電気自動車の戦略、商品企画、プロジェクト運営を経験してきました。電気自動車ハイパーミニの商品企画、プロジェクトのマネジメントを行い、またこの車を購入した顧客の一人として、今も通勤や、買い物に使っています。

電気自動車は、環境、エネルギー等の面が強調されますが、滑らかで力強い加速性能、静かさ、エネルギーコストの低さなど、クルマとしてすばらしい魅力を持っています。電気自動車の魅力と共に、今起ろうとしているクルマのパラダイムの変革についても皆さんと一緒に研究してまいります。

〈担当授業科目〉
自動車開発プロジェクト入門、プロジェクトIV

〈専門分野〉
電気自動車を中心とした新しいモビリティ全般

自動車システム開発工学科 特任教授
平野 宏

ライフサポート学会 奨励賞を受賞

平成22年度の「ライフサポート学会研究奨励賞」を、ロボット・メカトロニクス学科小川孔明さん（平成23年3月卒業）が受賞しました。この賞は優秀な卒業研究を行った学生に対して、ライフサポート学会より贈られる賞です。小川さんは、最近発展の著しいタッチパネルに着目し、医療機器や福祉機器に応用することにより、直感的に操作でき、使いやすく安全な機器ができるのではないかと考えました。そして、「タッチパネルを利用した内視鏡モデルの制御」を題目に卒業研究に取り組みました。開発した装置は、Webカメラのついた内視鏡マニピュレータとそのモータ駆動系をiPadのタッチパネルで制御し、カメラからの画像をiPad画面上に映し出すものです。タッチパネル画面を触ることでマニピュレータを屈曲させ、カメラの視野を変え、画像をiPad上に映し出すことができます。iPadを使ったのはいろいろなアプリケーションソフトがあり、得られた画像をさまざまに活用できるからです。小川さんは、マニピュレータおよびマニピュレータ駆動系の設計製作、Arduinoによるモータ制御システムの開発、Processing言語によるiPadへの画像取込ソフト制作を組み合わせることにより、所定の機能を持つシステムを完成させました。このシステムは、内視鏡だけでなく、福祉機器や工業用機器などいろいろな応用が考えられます。

（文責：ロボットメカトロニクス学科教授／松尾崇）



iPadで内視鏡モデルを制御している様子

福祉住環境コーディネーター協会主催

福祉機器・用具研修会 「視覚障害者の住環境・ 生活上の配慮を考える」 小川研究室にて開催

福祉住環境コーディネーターの方15名が参加して、小川研究室にて研修会が開かれました。視覚障害の程度と日常生活の困難さの関係について疑似体験を行いながら、暮らしの中で目の見えにくくなっている人にどのような配慮をすればよいのか、また、どのような補助手段があるのか、例えば、①触ってわかるようにする用具、②拡大してわかるようにする用具、③音声化して確認する用具、などを紹介しました。



日常生活での見えにくさを検討

また、全盲のゲストである川田さんからは、家具や小物類の配置を変えると混乱することや、広いスペースが苦手なこと、衣類にタグを付けて確認する工夫、など具体的なお話を、当事者の立場から紹介していただきました。最後に、住環境のあり方として、動線の安全確保、手がかりの設定、安全な作業空間などについて学び、参加者からは「いままではなんとなく想定していたことを、とてもクリアに理解することができました」などの声をいただきました。

（文責：ロボット・メカトロニクス学科教授／小川喜道）



配慮点についてのディスカッション

先端技術館@TEPIAに パワーアシストスーツと リハビリ用パワーアシストハンドを出展

4月7日から来年3月4日（予定）まで、北青山にある先端技術館@TEPIAで開催されている「もっと輝く未来へ。世界をリードする日本の先端技術」において、ロボット・メカトロニクス学科山本研究室で開発しているパワーアシストスーツとリハビリ用パワーアシストハンドが展示されています。特にパワーアシストハンドは来場者の体験も可能で、好評です。

先端技術館@TEPIAは常設の展示館で、先端技術の見学と体験ができます。館内ではアテンダントが展示されている様々な先端技術の内容についてわかりやすく説明してくれますので、中学生や高校生の修学旅行、遠足のコースにも組み込まれており、年間3～4万人の見学者が訪れるそうです。入場無料です。

（文責：ロボット・メカトロニクス学科教授／山本圭治郎）



パワーアシストスーツ



リハビリ用パワーアシストハンド

1年生による

「パナソニックセンター
東京」見学会

5月14日に、ホームエレクトロニクス開発学科1年生の「パナソニックセンター東京」見学会が行われました。天気にも恵まれ、素晴らしい見学会となりました。

見学会の朝、学生諸君はバス乗車時刻（大学集合者は8:40、本厚木駅前集合者は8:55）に遅刻せずに集合できるかとの心配がありましたが、時間通りに出発することができました。パナソニックセンター東京には10時40分頃到着しました。センター内部の見学会は午後から開始されることになっており、予定より早く到着した分、学生たちは見学開始時刻までお台場周辺の科学施設の自由見学を行いました。

パナソニックセンター東京の見学はグループを4グループに分け、グループ毎に分かれて見学が行われました。最新の技術やそれを利用した製品を見学したことは、学生たちの今後の学習活動に良い影響を与えると考えられます。

（文責：ホームエレクトロニクス開発学科助教／三栖貴行）

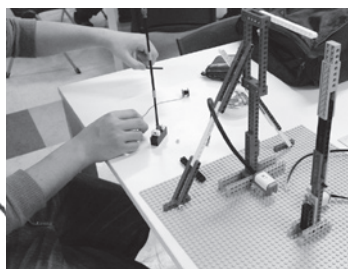
レゴ教材を活用した
教育および研究活動の展開

日本でも最近サイエンスやエンジニアリングの教材としての地位が認められてきたレゴ教育システム。いわゆるブロックだけではなく、センサやマイコン、キャパシタやソーラーパネルなどを融合した新しいレゴ教育システムが充実しています。本学では、1998年より高校生を対象として、レゴマインドストームを活用した課題攻略型ロボットコンテスト「電子ロボと遊ぶアイデアコンテスト」を開催しています。

ホームエレクトロニクス開発学科では、計測システムや組み込みシステムの学習、デザイン学習、プロジェクトのシミュレーションなどの場面で、レゴ教育システムを学習ツールとして活用しています。レゴ教育システムは、学習導入を容易にする一方、学習者の学習到達目標や学習深度に対応して課題設定の対応ができることが大きな魅力です。

今年度は特に、ナショナルインストルメント社と連携した実践プロジェクトや卒業研究において、家庭や都市のエネルギー管理をテーマとした実証的なプロジェクトをレゴ教育システムをフルに活用して取り組むことになり、今後ますますレゴ教育システムの活用の幅が大きく広がると考えています。

（文責：ホームエレクトロニクス開発学科教授／金井徳兼）

実験講義室を
リニューアルしました

Renewal

ホームエレクトロニクス開発学科が開設して、今年4年目を迎えます。この間、世間での本学科の認知度は徐々に高まって、志願者数および入学者数はどんどん増えました。

より良い快適な学習環境を作るために、今年4月実験講義室をリニューアルしました。写真のように、部屋全体の配置を再設計し、学生の座席数は最大68名まで増やし、同時に実験機材の収納スペースも拡大しました。什器の色は白で統一し、モダンできれいな環境ができました。現在すべての部屋はプロジェクターが完備され、また、電子黒板等の最新の教育機材も導入しました。今後、これを生かして、より高い教育効果を期待しています。

（文責：ホームエレクトロニクス開発学科教授／黄啓新）

高校生対象 進学フェスタ2011
大活躍! H科4年生!

4月27日、パシフィコ横浜にて開催された大学進学イベント「進学フェスタ2011」に本学科4年生の3名が参加しました。この進学フェスタ2011は高校生・教員・保護者・一般の方を対象とした進路イベントです。3名の4年生は、学科の説明、大学で学ぶことなどをわかりやすく解説していました。用意した学科リーフレット200部は全てなくなり、出展されたブースの中で本学のブースがもっとも盛況だったように感じています。今後も積極的にこのようなイベントに参加し、本学科だけではなく本学の広報活動に貢献したいと思います。

（文責：ホームエレクトロニクス開発学科助教／三栖貴行）



新バイオファミリー6期生を迎えて

「縦コン2011」開催

応用バイオ科学科では、北は北海道紋別から南は宮崎日南まで、総勢145名の新バイオファミリーを迎えました。今年の新生は平成18年の開設以来6期生となり、男子学生96名(66%)、女子学生49名(34%)の編成です。4月15日に、新バイオファミリーのスタートを祝して、先輩である2~4年生、さらに大学院生が第1食堂に駆けつけ、新生を盛大に歓迎しました。



全員で記念撮影!



友達が増えてきました!



キャンパスツアーの表彰の様子

学内での新入生ガイダンス

震災の影響で、例年より約1週間遅くキャンパスライフが始まりました。新生は、慣れない生活の開始に、多くのガイダンスをこなさねばならず大変だったと思います。履修方法や時間割作成では、3年生7名(松本彩香さん、寺嶋霞さん、後藤裕夏さん、鈴木芽子さん、久保田光さん、古田一馬さん、佐藤孝昭さん)と、2年生8名(岡友紀さん、合田瑞紀さん、新倉一希さん、渡邊茜さん、近藤恒平さん、宮国比呂夢さん、野島政宜さん、松浦芳樹さん)の指導のもと、予定を3時間ほど過ぎても熱心に残って時間割を立てていました。また、4年生が中心となって企画したキャンパスツアーでは、これから利用する大学の施設や大切な掲示版等をスタンプラリー形式で回りました。タイムレースで商品があったため、自分たちの班ごとに作戦を立てて楽しんでいました。



熱心に時間割を作成しています



キャンパスツアーでの一コマ(ジャンケン大会)

学生の研究・課外活動報告

課題研究I、IIの成果が投稿論文に!

学生生活のメインイベントである「卒業研究」は4年生で研究室に配属され行います。しかしその前に「研究」を体験したい人には「課題研究」をお勧めします。1期生の天願ルイスさん(平成22年3月卒業)は1年後期より課題研究に取り組みました。普段の日だけでなく、春休みや夏休みも澤井研究室に来て実験を行いました。その成果をまとめた論文が、微生物制御の学術専門雑誌である「防菌防黴」に掲載されました。学部生ではありますが、課題研究での内容が高く評価された結果です。皆さんも是非「課題研究」に挑戦して一早く「研究生生活」を味わってみてください。

化学工学会学生発表会にて優秀賞を受賞

3月5日に秋田大学で開催された第13回化学工学会学生発表会で、菅原瑞穂さん(大学院博士前期課程1年、市村研究室所属)が「ブタ腎臓脱細胞化スキャホールドの作製におけるプロトコルの最適化」と題した発表を行い、「優秀賞」を受賞しました。この発表会は、主に東日本の大学4年生と高専生を対象としたもので、研究内容はもちろん、質疑応答を含めたプレゼンテーション能力が他よりも優れていることが認められた価値ある受賞です。菅原さんは、「北里大学との共同研究の成果を発表しました。プレゼンの内容が高く評価され、周囲への感謝とともに身の引き締まる思いです。今後はスキャホールドを用いた臓器再生を目指し、さらに研究を進めていきます。」と今後の抱負を述べています。



化学工学会学生発表会「優秀賞」受賞式

「ホテルの有名な厚木市」にすることを目指して

応用バイオ科学科の有志が夢の実現プロジェクトの一環としてBioClub・ホテルプロジェクトの活動を始めて、今年で4年目になります。昨年度末には、3年生の久保田光さんと2年生の新倉一希さんを中心として、多くの水生生物の生育環境を整えたビオトープを製作しました。今年度は、4月に加わった1年生13名(安達稔さん、石井正男さん、井上亮さん、小野寺悠斗さん、喜田亜由美さん、北畠初美さん、坂田星成さん、佐野詩織さん、高橋正和さん、中野知治さん、中山玲奈さん、南口貴史さん、山野辺明さん)を加え、雨水を用いた給水装置の設置を行いました。今後は、ビオトープでの飼育に取り組むほか、新たに太陽光発電を用いたECOシステムの導入や展示会(6月)を予定しています。



ホテルプロジェクトのメンバー

海外バイオ研修の参加者過去最多に!!

毎年2月の中旬から3月中旬の1ヶ月間、アメリカ合衆国のシアトルで開講されているバイオ研修IIに、昨年度は過去最多の11名(現4年生の中根威実さん、現3年生の阿部公平さん、幸田博成さん、伊藤庄吾さん、山川貴大さん、入江史雄さん、藤田龍太さん、五十嵐友謙さん、現2年生の大塚俊さん、増山満莉奈さん、大町理未さん)が参加しました。参加者からは、「シアトルでの生活は、新鮮で思い出深かった」という感想が寄せられており、日本では得られない貴重な体験ができることから、年々参加者が増えているでしょう。6ヶ月の海外バイオ研修IIにも多くの学生が参加する見込みです。



バイオ研修を終えて

高校恩師を迎えての卒業研究発表会

去る2月12日、2期生の卒業研究発表会が開催されました。入学時と比べ、心身共に一段とたくましく成長した4年生が、一年間の研究成果を発表しました。「食品・食糧分野」の発表会場では、浪江昌弘さん(埼玉県立杉戸農業高校出身、岡部研所属)の高校時代のクラス担任であった榎浦純夫先生が発表会に参加してくださいました。榎浦先生曰く、「私は高校で、食品分析や微生物の培養を生徒に指導していますので、大変興味深く見させていただきました。浪江君は4年間、本当に充実した学園生活を過ごすことができたのだと思います。今回、お招きいただき、本当にありがとうございました。」会場では、活発な質疑応答が行われ、有意義な発表会となりました。



卒研発表会後、榎浦先生と一緒に

震災の中、巣立つ

3月11日、東北地方三陸海岸沖を中心とする大地震が発生し、卒業式が中止となりました。応用バイオ科学科の卒業生は全員無事でしたが、一つの区切りとしての大学全体の卒業式を執り行うことが出来ませんでした。研究室ごとに卒業を祝い、2期生は震災の中、元気に巣立って行きました。



菊地・澤井研の卒業パーティー

1年生 フレッシュヤーズ ガイダンスを開催

本年度の新入生を迎えて、4月13日にフレッシュヤーズガイダンスが開催されました。松本邦男学部長、江隆年学科長のお話の後、各学科教員が紹介されました。また、新入生には一人ずつ自己紹介を交えたスピーチをしてもらい、楽しく昼食をとりながら交流を深めました。どんな管理栄養士になりたいのか、すでにイメージしている学生も多く、高い意欲を感じました。これからの4年間、専門科目では高校までとは違う多くのことを学びます。理想の管理栄養士を目指して、互いに協力しながら充実した学生生活を送れることを願います。



栄養生命科学科1年1組の皆さんとL科教職員



栄養生命科学科1年2組の皆さんとL科教職員



2年生 クラスガイ ダンスと表彰式

4月12日に2年生の教務ガイダンスを行いました。L科一期生が全員元気に参加しました。2年生では管理栄養士を目指してのさらなる専門科目が多くなり、毎日朝から夕方まで授業の日々となります。さらに気合を入れ直して頑張ってもらいたいと思っています。

また、この日はガイダンスの前に「成績優秀者」並びに「ハイアクティビティ賞」の表彰式を行いました。「成績優秀者」はL科2年生の場合は1名が表彰を受けることになっており、岡奈津美さんが素晴らしい成績を収めて受賞しました。そして「ハイアクティビティ賞」は団体としてL科の1組、2組が、さらに個人としては稲見優さんが受賞しました。おめでとうございます！



成績優秀者の表彰を受ける岡奈津美さん

ハイアクティビティ賞を受賞した稲見優さん



新任のご挨拶

皆さんは昨日自分が食べた食品をすべて思い出せるでしょうか？メニューはある程度思い出せても、その中にとどの様な食材が入っていたかについては意外と思い出せません。私たち管理栄養士は、この以外と無意識に行われている「食べる」ということに焦点をあて、「食・食べる」を科学的に分析し、健康を維持・増進し、最後まで健康に生きていくために、より良い食べ方、食生活へ変わっていきけるために総合的に支援し、またそのような食生活が実現できるような環境整備をする役割を担っています。我が国では今、すべての国民の食を支援しようとする「食育」が国を挙げて推進されており、その中心的役割を担えるような「食の総合的プロデューサー」としての管理栄養士の養成を目指したいと考えています。

この4月に栄養生命科学科に着任しました。前任教は女子学生が多かったので、4月に男子学生の集団をみたときは、すごく異様な感じがしましたが、一ヶ月経ってすいぶん慣れてきました。この学科はとても忙しい学科です。でも、がんばっただけの成果がはっきりと得られるという特色もあります。皆さんが充実した4年間を送れるようお手伝いできればと思っています。

これまでラットやマウスを使って栄養に関する基礎研究を行ってきました。摂取する食物・栄養素によって生体に現れる現象が容易に変化する様子を実際に目でみると、毎日あたり前のように食べている食事の大切さを感じます。しっかり食べ、しっかり休養、しっかり運動をして、まずは自分の健康管理・自己管理ができるようになりましょう！

4月に栄養生命科学科に着任いたしました。それまでの11年間、東京家政学院大学で「身体と心を健康にするフードサービス」に関して、教育・研究に取り組んできました。技術の進歩とともに給食生産の機械化も進展しましたが、生産労働人口が減少する社会では、高齢者や女性も働きやすい「快適厨房」の実現が必要です。そのためには、従来の食の生産方法を見直し、顧客ニーズに合致したメニューを展開するための生産のシステム化や機械化が不可欠です。また今回の震災を契機に食の生産に要するエネルギーや危機管理体制についても見直しが求められています。これまでの管理栄養士養成の「給食経営管理論」に留まらず、工学の視点を含めた「食の生産管理システム」を具現化したいと思っています。



【担当科目】
栄養生命科学概論、栄養教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ、学校栄養指導Ⅰ、食育指導論、

【専門分野】
栄養教育、食育、食科学、食介護学、栄養免疫学、食行動科学、生化学など。全てのライフステージでの食育、栄養教育の実践にかかわる栄養教育法や社会環境整備についての実践とその評価法。

栄養生命科学科 教授
饗場 直美



【担当科目】
基礎栄養学、基礎栄養学実験

【専門分野】
生活リズム・生体リズムが乱れるような生活を送っている人々がどのような食生活をすれば健康を維持できるか？ラットを使って基礎実験をしています。

栄養生命科学科 准教授
花井 美保



【担当科目】
給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理実習、園地実習Ⅲ・Ⅳ

【専門分野】
給食経営管理、厨房労働科学：給食・中食や外食の生産システムでは喫食者のニーズを的確にとらえ、現有の資源を活用して、効率的に安全で満足度の高い製品を提供します。給食生産は其中で栄養改善や健康増進を重視しますが、「ものづくり」の原点は同じです。

栄養生命科学科 准教授
松月 弘恵

1年生対象

フレッシューズガイダンス
FG2011開催

4月13日～14日にかけて情報工学科フレッシューズガイダンス (FG2011) が開催されました。新入生 (fresher) のための入学時オリエンテーションの一環として毎年実施される大きなイベントのひとつです。今年の情報工学科新入生165名を、基礎・教養教育センターおよび情報工学科の教職員総勢28名が出迎えました。

不安と期待を胸に会場の席に着く新入生たちを温かく見守りながら、学科長松本一教授の講話の後に、就職に関するお話、教職員自己紹介、情報工学科リテラシーとしてノートPC設定の説明、授業履修についての説明を行いました。午後になると、クラスアドバイザー懇談会が実施され、1年生は担当アドバイザーの研究室で昼食をとりながら自己紹介したり、学生生活に関する説明を受けました。最後に、各自の時間割となる履修作成を行いました。研究室の4年生 (卒研生) や大学院生も加わって、いろいろとアドバイスを受けながら、知り合ったばかりの仲間たちと相談しながら、履修表の作成を行っていました。緊張したり、真剣だったり、はにかんだり、笑い合ったり、楽しかったりと、さまざまな表情の顔がそこかしこにありました。がんばれ新入生! がんばれ神奈工生! これからみんなが自由に大きく羽ばたいて空高く飛翔できますように。わたしたちはみなさんを応援します。ようこそ情報工学科へ。

情報工学科では、1学年を4つのクラスに分けています。各クラスには教養科目を担当する基礎・教養教育センターの教員がクラス担任となり、全般的なサポートにあたります。1年次の専門分野は主にコンピュータの操作やプログラミングなどを中心に学びますが、4年間という時間の中で、非常に幅広い情報技術・情報工学分野をカバーするために、よりきめ細かく指導することが求められます。それに応える形で、クラスアドバイザー制度を設け、1クラスをさらに5つの班に細分化し、1班10名未満の学生に情報工学科教員1名が細やかなフォローアップを行っています。

U18リケメン・リケジョの
IT夢コンテストを知っていますか?

全国の中学生・高校生から、創造性、個性豊かな「IT (情報技術) に関する夢」を募集し、そのアイデアを競うコンテストが情報学部主催で行われています。情報工学科が募集したテーマは、「新しい情報ビジネスモデルを提案してください」「未来の情報端末の姿はどのようなものになっていると思いますか?」「より豊かな人生を歩むために情報技術が果たす役割を提案してください」の3テーマ。6月中旬までの応募期間に全国からアイデアが寄せられており、7月23日に最終審査会と表彰式が本学メディアホールで行われます。



新任のご挨拶

私は、大学を卒業後、電気通信サービスを提供する会社に10年ほど勤務し、主に新技術の市場導入にかかわるプロジェクトに従事してきました。その後、その経験を生かし、情報通信技術の社会利用に関する研究を研究機関において行ってきました。情報通信技術は私たちの生活やビジネスの利便性を飛躍的に高めました。しかし、技術は容易に社会に受け入れられるばかりではなく、価値や使い方が分からず、なかなか社会に浸透しないこともあります。このような状況では、プロトタイプシステムを作り価値を可視化したり、シミュレーションにより価値を定量化することが有効ですが、私の研究室ではそんな技術の価値を明らかにしていく研究をします。

最先端の情報通信技術の使い方を考える、そんな研究を私と一緒にやってみませんか?

【担当授業科目】

経営情報システム、経営管理論、情報技術と企業経営、情報工学科リテラシー、情報工学実験

【専門分野】

経営情報システム、サプライチェーンマネジメント
情報通信技術の社会応用についての研究をしています。現在は、電子タグ等のコピキタス技術の商品流通やマーケティングに利用した際に実現できる新しいビジネスのやり方について研究をしています。



情報工学科 准教授
稲葉 達也

情報工学科
Androidの会 発足

先のニュースで、国内のスマートフォンとしての販売台数がiPhoneを抜いた、というような記事も出ていました。これからAndroidの普及はますます進むものと思います。私たちは情報工学科Androidの会は、最終的には開発者の立場からこの汎用ツールによる新たな価値の創造を狙っていますが、まずは、興味のある学生、教員が集まって、過去の成果の紹介、情報・意見交換を行いました。

第1回目の会合が5月18日に行われ、会長である山本富士男教授から情報工学科Androidの会の目的、体制などの説明がありました。参加者は主に大学院生、学部4年生 (卒研生) で30名を超えました。また、幹事である大学院博士前期課程2年の篠原正幸さんによる取り組みの紹介、納富一宏教授による学内LANを介したAndroid端末とインターネットとの接続方法の説明や卒研生によるアイデア発表など、時間が遅い開催だったにもかかわらず、多くの参加者が集まった会となりました。今後の取り組みが大いに期待できると思います。



幹事を務める大学院博士前期課程2年の篠原正幸さんの発表

田中博研究室の
研究内容がテレビで放映

田中博研究室が取り組む研究内容が、5月19日放送のBSジャパンの「地球★アステク」という番組で紹介されました。この番組は、今年4月からの新番組で、暮らしやビジネスを変える可能性のある先端技術を、研究開発の現場からわかりやすく紹介するものです。番組内容は、携帯電話とパソコンの両方の機能を併せ持つ便利アイテム「スマートフォン」の田中博研究室が開発している最先端技術を紹介するというもので、「加速度センサー」という傾きや動きなどを認識する機能とコンピュータとを連動させることで可能となった、テレビや音楽機器などの家電遠隔操作の技術について紹介されました。

3年生からはセミナー形式の授業開始
「情報工学セミナー」

情報工学科では、3年生になるとセミナー形式の授業が必修になります。その他の授業とは異なり、少人数で対面的に学習する形式となります。教員ごとにテーマや内容が設定されており、学生たちは興味がある専門分野の教員のもとでセミナーを受講することになります。この「情報工学セミナー」はもうひとつ重要な意味を持っていて、4年生になって卒業研究の指導教員を選択する際の事前評価という側面もあります。

4月より情報学部情報工学科に着任いたしました八木と申します。私は博士前期課程修了後、一旦民間企業に就職いたしました。その際感じたことは、会社の方針や時間的制約のため、例えば業務に関することであっても全力を注ぐことはできないものでした。学术界に復帰してからは、そのときの経験を基に社会のニーズは何かを常に考えながら研究活動を行っております。最近では専門分野である情報工学の知識を他分野へ応用する研究について興味をもっており、現在は金融市場の制度分析への適用を図っております。学生の皆さんには、このような情報工学のもつ実用性、可能性を知ってもらいつつ、一緒に研究活動に取り組んでいきたいと考えております。

【担当科目名】

システム工学、オペレーションズリサーチ、情報サービス管理論、C言語I、情報英語I、情報工学セミナー

【専門分野】

社会シミュレーション
コンピュータ上に仮想的な人間 (エージェント) を作り、彼らが各自のルールに基づいて行動したとき、社会全体でどういった変化が現れるかを観察します。例えば、株式投資家エージェントたちが自由に株式売買をしたときの市場株価の観察などが挙げられます。



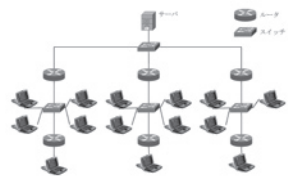
情報工学科 准教授
八木 勲

「情報ネットワーク実験I」(3年前期) 新たにコース別実験をスタート!

情報ネットワーク・コミュニケーション学科では、情報ネットワークコース、Webコミュニケーションコース、情報セキュリティコースと3つのコースを設け、興味ある分野を深く専門的に学べるカリキュラムを用意しています。これらの中から今回は今年度より開始したコース別実験を紹介します。情報ネットワーク実験I(3年前期)ではこれまで全コースに関連する実験を1項目あたり1週間で行っていましたが、今年からは希望するコースの実験を1項目に3週間かけて行っています。実験項目数は少なくなりますが、その分各項目では内容の濃い専門的な実験を行うことができます。実験項目は次の通りです。

■情報ネットワークコース

- ・無線伝送システムの構築と性能評価
- ・Javaネットワーク/GUIプログラミング集中演習
- ・ネットワークの構築と運用



■Webコミュニケーションコース

- ・3D表示
- ・携帯GPSデータの品質管理とアプリ開発
- ・C言語による画像処理



■情報セキュリティコース

- ・WEB-DBの構築と認証実験
- ・ネットワークトラフィックの分析
- ・暗号理論実践演習



ベリサイン認定アカデミックプログラムに 受講生37名が合格しました

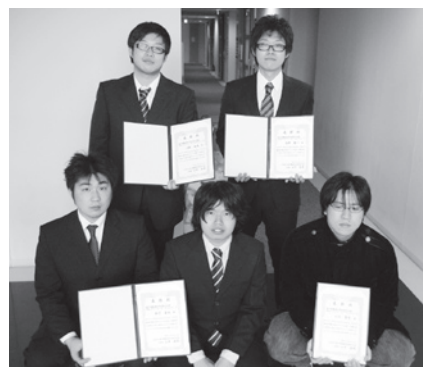
情報セキュリティコースでは、日本ベリサイン認定アカデミックプログラムを大学として初めて導入して、この度、情報ネットワーク・コミュニケーション学科の学生37名の受講生がこのプログラムに認定されました。

ベリサインは、セキュリティ分野で世界的に有名な企業であり、インターネットを安全に利用するための技術を提供しています。このプログラムは、ベリサインが情報セキュリティ分野の第一線で活躍するエンジニアに提供しているセキュリティトレーニングを教育機関向けに用意したものです。このプログラムに合格すると、国際的な認定証を取得できます。本学科では、他大学にはないこのプログラムを活用することにより、企業が求める情報セキュリティエンジニアの育成を目指します。



大学院生が電子情報通信学会から表彰

情報ネットワーク・コミュニケーション学科出身の大学院生らが電子情報通信学会東京支部の平成22年度スチューデントブランチアワードを受賞しました。これは本学会から関東地区の学生員として活発な活動をしている団体に贈られるものです。受賞した学生達は、他大学との交流会や学生主催研究会などの活動が認められ、受賞校5校のうちの1校として選ばれました。授賞式は震災の影響で中止となりましたが、電子情報通信学会東京支部長より賞状(写真)が後日贈られました。



臼杵研究室 課外活動

大学では多くのことを学びながら生活しますが、卒業研究着手と同時に配属される研究室の生活はそれまでとはまったく異なるものになると言っても過言ではありません。自分自身の能力や人間性を大きく飛躍させることのできるチャンスであり、社会人レベルの大きな向上を狙うことができます。

臼杵研究室では「しっかり勉強、じっくり研究、おもいっきり遊ぶ。メリハリを!」をモットーに、勉強・研究活動や就職対策活動のほかにも、日頃から皆さんの力を磨くさまざまなイベントを実施しています。

まず、イベントの中では「一生お付き合いできる真の仲間づくり」を強く意識しています。研究室配属後の勉強会や合宿に始まり、卒業生と在学生の交流会を多く実施しています。この中で「先輩が研究室で学んだ事柄の伝授」、「就職後に役立っている事柄の紹介」や「職場での取り組みに対する問題点の提示」などに関する検討や議論を通じて、「先輩後輩の縦のつながり」と「同輩同志の横のつながり」の双方を強化し、お互いを切磋琢磨していく基盤を整えています。

今回はこのようにして取り組んでいる事柄の一つ、「iTOCSプロジェクト」の一部を紹介します。

「iTOCSプロジェクト」の紹介 ～在学生と卒業生の交流で双方が切磋琢磨～

アプリ開発企画「iTOCSプロジェクト」

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 准教授 臼杵潤

仲間のC言語プログラミング能力を実践レベルに引き上げ、お互いの知識・技術の共有と活発な議論を通じて、アプリケーションソフト(以下、アプリ)の開発と販売までを迅速に行える組織をつくりたいという考えが私の中にありました。本プロジェクトはこの考えをベースとしてiPadの日本上陸を機会に旗揚げしたもので、考案したiTOCSライセンスの上に成り立っています(iTOCSライセンスに関する細かなお話は、また別の機会にしましょう)。プロジェクトと言っても、iTOCSプロジェクトは大学の授業とは関係のない一種の有志活動です。

現在のメンバーは臼杵研究室とその卒業生を主とし、試行的にメンバーを拡張して運用しています(運用の安定とともに今後さらなる拡張を予定しています)。活動は毎週1回のワークショップが主体となっていて、ワークショップではメンバーが作成しているアプリとその技術紹介による講習会などを行っています。ここではメンバーは講習会参加者であり、かつ挙手性で講師にもなります。

もともと構成員のほとんどが学生でしたので、当初は週1回ワークショップを開催しても講師担当希望者が現れないことを危惧しましたが、皆さんの意識が高く、この心配は無用だったようです。

現在は、約1年続いたワークショップによって主力メンバーの技能は向上し、メンバーが個別にアプリ開発を進めるとともに、新メンバーも含めたプロジェクト全体でのアプリ開発企画も進めています。iTOCSプロジェクトのメンバーが発信するアプリが、そして、iTOCSというキーワードが皆さんの手元に届く日を目指して頑張っています!



ワークショップにおける発表・質疑の様子



ワークショップにおける作品デモと検討の様子

文理融合・産学連携 ケータイプロジェクト教育の 成果と新たな出発

情報メディア学科では文系の専修大学経営学部等と合同で、クラウドコンピューティング時代に相応しい、サーバと連携する携帯電話アプリケーション開発を課題とするプロジェクト教育を実施しました。

その特徴は、文理の学生が合同で自由な発想によりアプリを考案し、その後理系校はアプリのプログラムを開発し、文系校はビジネスモデルを考える文理融合型のプロジェクト教育です。また、携帯電話会社等の産業界と連携して、各社から携帯電話の提供を受けて実機上でプログラム開発や接続実験を行います。

昨年4月にアプリのアイデアを考え始め、合同合宿で基本コンセプトを固めました。アプリ名はフォトリングで、その由来はPhoto(写真)+Ring(つながる)です。旅の思い出共有が目的で、観光地情報の提供機能や写真投稿・閲覧機能などを創りました。各社の端末から、サーバに観光地情報と写真をアップし共有が可能です。昨年11月の幾徳祭で中間発表を行い、3月上旬に情報処理学会全国大会で技術成果を発表し、さらに各協力企業で成果を報告し、有意義な意見交換を行いました(アキバUDXでの最終発表会は震災で中止となりました)。本学からは竹淵瑛一さん、庄司諒平さん、瀧口篤士さん、三角甫さん、平木浩二郎さんが年間を通して参加しました。彼らは大変苦労が多かったと思いますが技術力や文系学生とのコミュニケーション力が向上し、自己の成長につながったと振り返っています。

今年度はスマートフォンの特徴を活かしたアプリの開発を目標として、新たなチームでプロジェクトを開始しました。

(文責:情報メディア学科教授/速水治夫)



アプリのトップ画面



平成22年度のプロジェク参加者



平成23年度のプロジェク出発

新任のご挨拶

はじめまして。梶研吾と申します。漫画、映画、ドラマ等の世界で現在進行形の身ではありまして、本学ではきわめて異端かと思いますが、何卒よろしくお願致します。周囲を見回すと、あまりに錚々たる先生方ばかりで、ただただ感嘆、感心、感動しております。学生諸氏と同じく、日々は教えられ、学ばせていただくことばかりで、あたかも自身、大学時代が戻って来たかのような状況です。が、私のこれまでの拙い経験と、現在の仕事から得ている情報等を極力よい形でフィードバックして、「キャラクター工学」を確立させ、本学と学生諸氏の一片のお役に立てればと思っている次第です。



情報メディア学科 教授
梶 研吾

〈専門分野〉

漫画、映画、ドラマ、ゲーム等のエンターテインメントの世界におけるキャラクターの研究と創出、工学技術等とのミックスによる世界に向けた新しいキャラクター作り

〈担当科目〉

キャラクター概論
キャラクター創作論

4月から情報メディア学科の助教を務めさせていただいています。分かりやすい授業を行うように心掛けています。基礎知識の習得と実習演習の繰り返しを行い、「学ぶことの意味」や「学ぶことの楽しさ」を知ってもらい、獲得した知識を応用力へと転換し、「自ら考え行動する技術者」を目指して社会で活躍できる人材を育成できるような授業を行いたいと思っています。

和歌山県出身で、石川県に14年間住んでいました。関東圏で生活するのは初めてです。こちらの名物を食べようというろ探しています。おすすめのお店などありましたら、お教えいただくと幸いです。



情報メディア学科 助教
小坂 崇之

〈専門分野〉

バーチャルリアリティ技術やセンサ技術を用いて我々が快適にコンピュータと接することができるインタフェースの研究を行っています。

〈担当科目〉

C言語I(演習)、ゲーム制作論、情報メディア演習I、情報メディアセミナーI

皆さんこんにちは。CGアニメーションにおける美術担当として本学科に着任させていただくことになりました。情報メディア学科の皆さんにとって、コンピュータグラフィックス技術だけでなく、それぞれの個性を生かした美的センスあふれるスタイル・作風構築の手助けもできればと思っています。また、CGアニメーション制作とは非常に根気のいる作業です。できる限りの労力と時間を使って、学生生活において満足のいく作品を残してください。ものづくりの面白さ、作品を完成させることの難しさ、できた時の達成感を体験してもらいたいです。作品制作を通して、皆さんが将来の夢や目標を発見できることを願っています。



情報メディア学科 助教
牧 奈歩美

〈専門分野〉

2D/3Dアニメーション、コンピュータグラフィックス、ドローイングなど。CGでありながら、手描き鉛筆や絵の具などの要素を取り入れ、手作り感あふれるCGアニメーション制作をしています。

〈担当科目〉

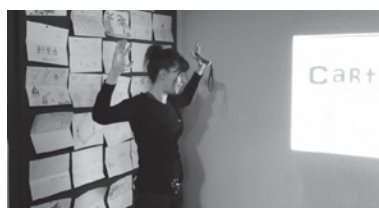
基礎演習、情報メディアセミナー

「第13回フランス Laval Virtual 2011」にて発表

情報メディア学科白井研究室と佐藤研究室は4月6日～10日の5日間、世界最大級のバーチャルリアリティ(VR)技術のコンベンション「第13回国際VR会議・Laval Virtual 2011」の国際VR作品公募展「ReVolution」に参加し、発表を行いました。

作品は、佐藤研究室研究生の八木本賢さんと下島安嵐さんによる玩具「ベイベレード」の世界を複合現実(MR)にした「MRSPINTOP」と、白井研究室の藤村航さん(4年)、岩橋翔仁さん(大学院博士前期課程1年)による、マイクロソフトKINECTを使って自分の描いたマンガの世界に飛び込むことができる「CartoonNect」を発表し、専門家や一般、家族連れといった幅広い来場者に好評を得ました。また日仏のマンガ文化と市場化を研究する坂井拓也さん(大学院博士前期課程1年)は、フランス語のスキルを生かし、学会公式スタッフとして活躍しました。

藤村さんは、震災後の短い期間で、作品を「放射能汚染の進んだ世界にヒマワリを植えて再生するシリアスゲーム」に変更するなど、数々の苦労を超えて実現した海外展示発表でした。白井准教授は日本代表のVR研究者として、震災後の日仏関係において、VRを通じた継続的な交流を訴え、大きな反響を得ました。



作品「CartoonNect」は全身をつかって遊ぶ「放射能とヒマワリ」をテーマにしたゲーム



作品「MR SPINTOP」…ベイベレードはフランスでも大人気!下島さんは発表を通してフランス語を覚えました。



Laval Virtualの会場となるフランス西部のラヴァル市は中世の雰囲気が残る風光明媚な中規模都市。



現地フランス人家庭でのおもてなしも受けました。片言の英語とフランス語で交流。



白井研究室の岩橋さん、藤村さん、坂井さん

工学教育研究推進機構

神奈川県主催 県央地域環境情報交流会が本学で開催

神奈川県県央地域県政総合センター主催の県央地域環境情報交流会(Post環境フェスタ)開催に本学が協力し、3月8日、「低炭素社会の実現に向けた取り組みについて」と題して本学で開催されました。

本学の太陽エネルギーシステム研究開発センターの紹介および見学の後、ソーラーフロンティア株式会社執行役員の櫛屋勝巳氏および宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙科学研究所の佐々木進教授の講演が行われ、最後に交流会参加団体等の取組内容の紹介および意見交換が行われました。また、本学の太陽エネルギー利用への取組に高い関心が寄せられました。



神奈川県委託のIT/エレクトロニクス技術実用化研究成果発表会が開催

神奈川県委託事業であるIT/エレクトロニクス技術事業化促進事業の一環として開催されている、IT/エレクトロニクス技術実用化研究成果発表会が、本学の協力の基、JASVA(財日本半導体ベンチャー協会)により2月28日、厚木商工会議所で「IT/エレクトロニクス技術の福祉機器への応用〜リハビリテーション、介護予防の支援〜」と題して開催されました。

本学からは、ロボット・メカトロニクス学科の山本圭治郎教授が「パワーアシスト用機器の事例」として講演しました。尚、今回の開催に当たっては、委託先のJASVA理事川手啓一氏および神奈川県商工労働局鈴木順子氏が山本圭治郎教授に開催についてご相談に来られ、講演者などのご推薦を受けられました。講演は、神奈川県総合リハビリテーションセンターリハ工学研究室長藤井直人氏が「リハビリの臨床現場から見たニーズと福祉機器の現状」、(株)東芝研究開発センター技監松田栄信氏が「人間共存環境を目指したロボット技術開発」、また地元ベンチャー企業の(株)ヒューマノイド代表取締役社長森岡昌紀氏が「均質なサービスを提供する為のコミュニケーション・ツール」の各テーマで行われました。

本学が地元のお菓子工房と共同開発した商品が販売開始

愛甲石田でケーキ店を営むお菓子工房「サラ」は、(財)神奈川県産業振興センターの事業「ビジネスプラン評価(ビジネス可能性評価、コンソーシアム事業、企業間連携)」として、地元(県内)材料を使ったお菓子の共同開発(大学との連携)により、厚木市の名物となるようなスイーツの開発を目標に、マーケティング面で湘北短期大学、技術面で神奈川工科大学と連携し、活動してきました。

本学の栄養生命科学科高橋智子教授は、新商品開発にあたってこれまでの知見からのアドバイスおよび食品加工技術会社の紹介などを通じて、開発に寄与し、米粉入りクッキー(ちょこめ)、洋風大福(酒プリン)、はちみつジンジャーゼリーの3種の製品開発が成功しました。この結果は5月12日の厚木商工会議所のグリーンビジネス研究会で発表されました。また、高橋教授の研究に関しては、今回の商品開発だけでなく、発表された「肉加工食品の物性と咀嚼・嚥下」研究全般に高い関心が寄せられました。



教育開発センター

教育開発センター10周年記念誌を発刊

平成12年(2000年)4月に発足した「教育開発センター」が10周年を迎えました。この間の活動状況を記念誌『教育開発センター10年の歩み』として教育開発センターニュースの特集号として発刊しました。以下に、主な点を述べます。

スタート直前の資料には、設置目的として「社会に貢献する人材の育成を目指し、大学の教育内容の改善と教育力の向上を図ること」がうたわれています。すなわち、本学の教育目標を明確にし、それを達成するために組織的な教育体系を見直し、改革を進めることにあります。より具体的には、教育目標の設定、カリキュラム開発、ファカルティ・ディベロップメント(Faculty Development: いわゆるFD)の推進です。



教育目標に関しては平成19年2月の教授総会において「考え、行動する人材の育成—社会で活躍できる人づくり—」を設定し、具体策4項目から成っています。カリキュラムの開発は教育目標に沿って行うものであり、現在、教育開発センターを離れて全学組織「教育体系等検討委員会」において進められています。

一方、センター発足当時、FDとは「授業改善」そのものであったが、10年間に全国的な考えが少しずつ変化し、今日では教員の日常活動の向上を指すようになってきており、焦点が合わせづらくなりつつあります。授業改善については3年前より「授業アンケート実施」「教員から学生へのコメント集の発刊」「授業公開」「授業改善コメント集の発刊」を年間を通して実施するようになって急速に改善されつつあります。

そのほかに教育開発センターの特徴としては「基礎教育支援センター」の運営があります。大学は教員の教育力の向上も大切ですが、学生の学力向上はもっと大切です。この10年間で学生の質が急速に変わってきています。特に、学習指導要領の改訂に伴い高校における科目の選択幅が広がり、大学に入ってきて未履修科目が多く、大学の授業に対応できない学生が増えています。高校と大学の橋渡しをする基礎教育支援センターを発足させましたが、学生には好評であり、年間利用者数が6,000名を超えています。

附属図書館

2011年度図書館報「ほんばこ」発行のお知らせ

図書館で毎年発行している情報誌、「ほんばこ」2011年度版が出来ました。

今回の特集は、①「1Fフロアがリニューアルしました!」新しい知的空間を目指した図書館リニューアルのご案内、と②「ブックログははじめました!」Web上の本棚サービス、「ブックログ」についての紹介を掲載しています。図書館各所に配置していますので、ぜひ手にとってご覧ください。

食品産業・栄養学総合データベースのご紹介

本年度から食品科学総合フルテキストデータベース「Food Science Source」が利用できるようになりました。食品科学をはじめ、幅広い学習研究活動にぜひご活用ください。

また就職活動に役立つ新聞データベース、「日経テレコン21」や「東洋経済 Digital contents Library」、学術研究の強力なツール「Web of Science」など多彩なデータベースを用意しています。図書館ホームページ、トップ画面右メニューにリンクがありますので、学内どこからでもご利用ください。(IP承認)



ブックハンティング(選書会)を開催

ブックハンティング(選書会)とは、図書館に置いてほしい図書を学生の皆さんに選んでいただくイベントです。4月28日に開催した第1回ブックハンティングでは、約700人の学生、教員の方にご参加いただきました。

選書いただいた図書(約200冊)は、図書館企画展示コーナー「学生の選んだ本展」に展示しています。今年は秋に第2回開催を予定しています。より良い図書館創りのために、ご参加お待ちしております。詳しい日程は図書館内ディスプレイやホームページで随時お知らせいたします。

国際センター

春季海外研修を実施

2011年2月~3月で以下の海外研修を実施いたしました。

- 海外自動車工学研修(2週間) イギリス、オックスフォードブルックス大学: 参加者11名
- 海外機械工学研修(4週間) アメリカ、サウスアトール・コミュニティカレッジ: 参加者3名
- 海外バイオ研修(4週間) アメリカ、サウスアトール・コミュニティカレッジ: 参加者12名
- 海外応用化学研修(4週間) アメリカ、サウスアトール・コミュニティカレッジ: 参加者5名
- 海外情報メディア研修(4週間) アメリカ、レイクワシントン技術大学: 参加者5名
- 海外航空宇宙学研修(4週間) アメリカ、サウスアトール・コミュニティカレッジ: 参加者9名

また、3月19日には機械工学科航空宇宙学専攻の6ヶ月留学プログラム参加者11名が、米国協定校グリーンリバー・コミュニティカレッジに向け出発しました。11名のうち9名は6月からの航空機操縦実習にチャレンジします。



KAIT CAMPUS SUPPORT

KAITキャンパスサポート

基礎教育支援センター

新任チューター紹介

数学担当 鴨 脩平

長年高等学校に勤務しておりましたが、この度、縁あって基礎教育支援センターのチューターとして勤務することになりました。久しぶりに大学の数学に取り組むことになり皆さんと共に勉強できることをうれしく思います。私の趣味は登山です。一步一步あせらずゆっくり登ることによって高い山も難しいと思われた山も登ることができました。まだ登っていない難しい山がたくさんありますが、学問の道もこれと同じで、今まで解けなかった難しい問題が自分の力で解けるようになり、その喜びは何物にも代えがたい喜びになります。その喜びを共に味わいましょう。

数学担当 加藤 博

この四月から基礎教育支援センターで、月、金の週2日「数学」を担当していくことになりました加藤博です。たくさんの皆さんの質問や相談に応えようとする中で、一緒に勉強ができ、学問をすることの楽しさを共有できることに、改めて感謝しています。

本来の数学は、理論としての「仮定の話」、対して工学は、云ってみれば「現実の話」、そこに数学を適用することの判断と調整の興しもあるように思います。新しいスタートラインに立って、将来を切り開こうとする皆さんの少しでもお役に立てればと、思っています。

学生相談室だより

新年度スタートに向けて

3月11日に震災がありました。あれから震災関連TVにかじりついた人、いつもよりおしゃべりになった人、メールの量が増えた人、寝つきがよくなった人、涙もろくなった人、イライラしやすくなった人など、いらっしゃるかもしれません。

震災は被災地の方々にとっても大変なことでしたが、それ以外の人の心や体に多少なりとも変化が起こることがありますし、それが自然なことです。それでも、私たちの心と体には、大変な出来事に向き合い、乗り越える力が備わっています。

4月11日から遅れて始まった新学期。一人ひとりがそれぞれのしんどい体験をこなしていくために、「目の前にある「やること」をできるようにこなしていこう、そうすれば、少しずつ思うようになっていくだろう」、とイメージすることは、健康的な考え方の一つです。

さて、今年度、学生相談室カウンセラーとして吉崎真奈美さんが着任しました。ごあいさつしていただきましょう。

「初めまして、新任カウンセラーの吉崎真奈美です。学生相談室生活も2ヶ月が過ぎ、少しずつこの場の空気に慣れてきたところです。しかし仕事のスピードにはなかなか追いついてゆけず、帰宅後はひたすらボーっとしながら全神経をクールダウンさせています。最近、さらに深くボーっとするためにアロマポットも購入しました。ムーミン谷のさすらいの人スナフキンが好きです。どうぞよろしくお願いします。」



Doctor's Message

大震災の影響で心配されること

学生相談室 精神科医 市来 真彦

3月11日に東日本に大震災が起きました。ご本人、ご家族、ご親戚ならびに友人の皆様方で被災された方がいらっしゃる皆様に、まずはお見舞い申し上げます。

私は当日茨城で被災し、現在茨城県内の被災地のサポートを行っています。3ヶ月たった今でも、被災者の皆様には、身体にも心にもいろいろな影響が起きているのだなと実感する毎日です。阪神大震災のときにもサポートに参加しましたが、それらと同じ状況もありますが、異なっている状況もたくさんあり、まさしく史上最大の震災であるように思います。

こころの問題に限って言えば、近親者がお亡くなりになった方は、そのこころの処理（喪の作業と言います）に心を痛め、液化化で傾いた家に住むことが出来なくなった方や津波で家が流された方は経済的なことで将来を悲観していらっしゃることでしょう。また以前に精神的な不調を持った経験がある方の中には、今回の震災をきっかけにして症状が再発された方もいらっしゃいますし、以前に不調の経験がなかった方であっても、常に身体が揺れている感じがしたり、耳鳴りがしたり、余震のたびにドキドキしたりといった変化が起きている方もいらっしゃいます。さらに大きな問題は原発に関する問題で、これはどのようになるのがまったく予測がつかません。加えてこの夏には計画停電の可能性もあり、まだまだ震災の影響と、心配は尽きませんが、だからこそ今出来ることをしっかりやる必要があります。

特に大きなショックを受けた脳のためにはEPAやDHAを含んでいるという魚を食べると良いとも言われています。脳の休息に大切なのは睡眠です。ですからバランスの良い食事を三食摂り、睡眠を十分に取、規則正しい生活を心がけることです。それでも不調を感じる場合は健康管理室や学生相談室に相談してみましょう。

KAIT キャリア・アドバイザー室

就職活動は人生の棚卸しと新たな進路を考える絶好の機会!!

キャリアアドバイザー 野平 光三

自分はどんな生き方をしてきたのか? どんな特長があり、長所があるのか? を真剣に考え、自分と向き合い、己を知る事が一歩です。働く事? 仕事の事? 一人悩まず気軽に就職よろずアドバイスを行うCA室に足を運んでください。大学卒業後、何がしたいのか? 何になりたいのか? 何故なのか? 想いを実現するには現在の自分は? 過不足は何か? を理解する事が大事です。私達が必死に見出そうとしている点は、学生の持つ可能性なり長所です。面談や模擬面接を通して、理解を深め、共に悩み考えているのです。その過程では、時に優しく、時に厳しく話も致します。現在、大学のサポートを得ている皆様は、卒業後は己の力で生きて行かなくてはなりません。その一歩として「言われた事をただやる受動的姿勢を改め、自ら考え、行動する能動的人物」に変身する事をお勧めします。

人にはそれぞれの生き方があり、価値観も異なります。その中で個々の学生が自分らしく精一杯生きて行く道を選ぶのも人生です。是非その過程で、先生、先輩、同輩、後輩、ご家族 等年齢も経験も多岐に渡る人と会話を交わし実践的コミュニケーション力と論理的思考力を磨いて下さい。また自己紹介欄の自己PRとか志望動機等の文章表現に自信がない、どうすれば良いのか分らない、という点では日々、己に関する日記を出来る限り熱い想い、表現で書く事が良いと思います。いつの間にか文章力も向上してきます。最後にCA室には日程の時間的余裕を持って気軽に入室して有効活用する事をお勧めします。

経営管理本部

総務課

幾徳学園における組織変更

- ①経営管理本部、学生支援本部の設置(部制の廃止)
- ②「経営管理本部」
補助金関係業務を明確化させるために「外部資金課」の設置
学生募集に係わる入試課と企画広報課を一本化して「企画入学課」の設置
「学生支援本部」
本学の学生本位主義の現れとして「卒業生支援課」を設置
(キャリア就職課と一体となって在学生および既卒者のキャリア就職支援体制)

人事発令

<定年退職>【3月31日付け】

情報学部情報工学科	教授	徳増 眞司
情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科	教授	石坂 充弘
情報学部情報メディア学科	教授	関 靖夫
創造工学部自動車システム開発工学科	教授	遠藤 順一
工学教育研究推進機構	技術支援室	佐藤 武
財務部経理課長		宮崎 泰雄

<自己都合退職>

(教育職員)

情報学部情報工学科	准教授	相浦 宣徳
-----------	-----	-------

応用バイオ科学部栄養生命科学科	教授	真鍋 祐之
-----------------	----	-------

(事務職員)

学務部教務課課長代理		奈良 洋子
------------	--	-------

<新規採用>【4月1日付け】

(教育職員)

工学部機械工学科	教授	永尾 陽典
----------	----	-------

応用バイオ科学部栄養生命科学科	教授	饗場 直美
-----------------	----	-------

情報学部情報工学科	准教授	稲葉 達也
-----------	-----	-------

情報学部情報工学科	准教授	八木 勲
-----------	-----	------

応用バイオ科学部栄養生命科学科	准教授	花井 美保
-----------------	-----	-------

応用バイオ科学部栄養生命科学科	准教授	松月 弘恵
-----------------	-----	-------

情報学部情報メディア学科	教授(特任)	梶 研吾
--------------	--------	------

情報学部情報メディア学科	助教(任期制)	小坂 崇之
--------------	---------	-------

情報学部情報メディア学科	助教(任期制)	牧 奈歩美
--------------	---------	-------

<期間の定めのない雇用への変更>

創造工学部自動車システム開発工学科	教授	石井 光教
-------------------	----	-------

応用バイオ科学部応用バイオ科学科	教授	小池あゆみ
------------------	----	-------

工学部応用化学科	准教授	森川 浩
----------	-----	------

情報学部情報工学科	准教授	鷹野 孝典
-----------	-----	-------

応用バイオ科学部応用バイオ科学科	准教授	清水 秀信
------------------	-----	-------

<准教授から教授へ昇任>

工学部応用化学科	教授	高村 岳樹
----------	----	-------

応用バイオ科学部栄養生命科学科	教授	澤井 淳
-----------------	----	------

<講師から准教授へ昇任>

工学部機械工学科	准教授	今井健一郎
----------	-----	-------

<助教から准教授へ昇任>

情報学部情報工学科	准教授	宮崎 剛
-----------	-----	------

創造工学部ロボット・メカトロニクス学科	准教授	渡邊 紳一
---------------------	-----	-------

<任期制助教から任期制准教授へ昇任>

工学部電気電子情報工学科	准教授	工藤 嗣友
--------------	-----	-------

<嘱託職員新規採用>

顧問		土居 正
----	--	------

経営管理本部 財務課		宮崎 泰雄
------------	--	-------

学生支援本部 教務課		奈良 洋子
------------	--	-------

学生支援本部 学生課 学生相談室		吉崎眞奈美
------------------	--	-------

工学教育研究推進機構工作工場		仲手川 稔
----------------	--	-------

工学教育研究推進機構KAIT工房		渡辺 節男
------------------	--	-------

理事会・評議員会報告

【理事会決議事項】3月23日私学会館にて開催

- (1)平成22年度補正予算案承認の件
- (2)平成23年度予算案承認の件
- (3)理事1名選任の件
- (4)評議員3名選任の件
- (5)学則変更の件
- (6)大学院学則変更の件
- (7)諸報告の件

【評議員会審議事項】

- (1)平成22年度補正予算案の件
- (2)平成23年度予算案の件
- (3)理事2名選任の件
- (4)諸報告の件

平成23年度 神奈川工科大学役員・評議員

役員(理事・監事)(平成23年4月1日現在)

理事長	中 部 謙一郎	財団法人中部奨学会 理事長、医療法人玉扇会 理事、(兼)評議員
筆頭理事	高 橋 正	全般担当
理 事	小 宮 一 三	神奈川工科大学学長、(兼)評議員
理 事	松 本 邦 男	神奈川工科大学副学長、応用バイオ科学部長／栄養生命科学科 教授
理 事	森 武 昭	神奈川工科大学副学長、ホームエレクトロニクス開発学科 教授
理 事	石 上 純 男	キャリア就職、卒業生支援、総務(人事)、財務(予算・決算)、外部資金担当、(兼)評議員
理 事	河 野 隆 二	企画入学、教務、工学教育研究推進機構、情報教育研究センター、教育開発センター担当
理 事	谷 村 浩 二	総務、庶務、事務システム、財務(予算・決算)、外部資金担当、(兼)評議員
理 事	柴 田 淳之助	国際、教務担当、(兼)評議員
理 事	関 正	学生、図書館担当、(兼)評議員
理 事	後 藤 至 宏	管財、財務(予算・決算)、外部資金担当
監 事	河 田 清	(元)横浜マニチロホールディングス常任監査役
監 事	大 西 興次郎	(元)横浜マニチロ物流 常務取締役

評議員(平成23年4月1日現在)

学 長	小 宮 一 三	神奈川工科大学学長／(兼)理事
法 人 職 員	田 辺 誠	工学部機械工学科教授
	中 村 誠	情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科教授
	速 水 治 夫	情報学部情報メディア学科教授
	山 本 圭治郎	創造工学部ロボット・メカトロニクス学科教授
	菊 地 幹 夫	応用バイオ科学部応用バイオ科学科教授
	山 本 一 雄	基礎・教養教育センター教授
	花 山 政 忠	財務部長
	久保田 昌 彦	財務部管財担当部長
卒 業 生	前 泊 哲 明	キャリア就職課専任部長
	塚 田 博 之	国際センター事務長
	畑 雅 博	幾徳学園 同窓会長／ホーチキ(株) 常任顧問
	椎 名 良 一	(株)ノバシステム 代表取締役
学 識 経 験 者	内 山 洋 司	筑波大学大学院システム情報工学研究科教授
	中 山 裕 之	ソニー(株)半導体事業本部
	阿 部 嗣	野村マイクロ・サイエンス(株)
	中 部 謙一郎	(兼)理事長
	石 上 純 男	(兼)理事
	谷 村 浩 二	(兼)理事
	柴 田 淳之助	(兼)理事
	関 正	(兼)理事
	高 島 浩	(元)常任理事
	青 木 賢 治	(元)マルハ(株)取締役副社長
	中 部 由 郎	大東通商(株)代表取締役社長
	青 山 侑	明治大学大学院教授／元東京都副知事
	栗 林 直 幸	(元)横浜農林中金総合研究所代表取締役社長
	前 島 一 夫	ピーロート・ジャパン(株)顧問／学校法人中央大学理事
	松 下 亮	(元)高砂熱学工業(株)専務取締役
	高 山 稔	(元)横浜マニチロホールディングス代表取締役副社長
	中 谷 修 己	横きんでん相談役
	高 野 角 司	高野総合会計事務所代表
	三 島 吉 夫	小田急電鉄(株)総務部・顧問
	富 澤 昌 美	(元)読売新聞東京本社事業局部長

財務課

平成22年度各種補助金の交付状況

(単位:千円)

A.私立大学等経常費補助金	841,410
1)一般補助	513,877
2)特別補助(各大学等の特色を活かせるきめ細かな支援)	327,533

大学等の質向上メニュー	
1. 大学教育の質向上への一体的な取組支援	34,305
2. 大学間連携等の推進	4,551
学部教育の高度化・個性化支援メニュー	
1. インターンシップの推進	2,192
2. 高大連携の推進	
就学機会の多様化推進メニュー	
1. 社会人の入学の推進	13,776
2. 専門高校卒業者の入学の推進	
3. 帰国学生の入学の推進	
4. 障がい者の入学の推進	2,326
大学院教育研究高度化支援メニュー	
1. 大学院教育の実質化の推進	49,170
2. ティーチング・アシスタント支援	11,885
先端的学術研究推進メニュー	
1. 研究施設・設備等運営支援	104,302
2. 教員の流動化促進支援	5,048
3. 戦略的研究基盤形成支援事業(継続分)	23,616
地域活性化貢献支援メニュー	
総合的な地域活性化事業支援	8,791
大学等の国際化推進メニュー	
世界を舞台に活躍する人材養成支援	9,115
高度情報化推進メニュー	
ICT活用教育研究支援	58,456

B.私立大学等研究設備整備費等補助金(私立大学等研究設備等整備費)	15,785
1) (研究設備) 3元同時スキャニング装置	12,555
2) (研究設備) 溶媒精製回収システム	3,230

C.学術研究振興資金	3,500
-------------------	-------

D.大学改革推進等補助金	30,924
1) (大学改革推進事業)「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム(平成21年度)	10,924
2) (大学生の就業力育成支援事業)大学生の就業力育成支援事業(平成22年度)	20,000

学生支援本部

教務課

新年度オリエンテーションとプレイスメントテスト(新入生)実施

■オリエンテーション1年次生:4月11日～4月14日/2年次生:4月12日/3年次生:4月14日/4年次生:4月11日

■プレイスメントテスト(1年次生):4月12日

※新入生プログラムは、「履修案内」「時間割表作成・相談」「学生生活案内」「教職課程ガイダンス」「学芸員課程ガイダンス」「Stop the CO₂プログラム履修案内」など大学生活で重要な内容が説明されました。

■新学期開講:4月15日

■履修登録期間:4月15日～4月22日

■前期・通年科目履修キャンセル:5月16日～5月21日

※保証人の方々には、「履修&授業ガイドブック(抜粋版)」と「学生生活ハンドブック」(1年次生のみ)を送付し、学生と情報を共有していただいています。本学の学生本位主義の現れとして「卒業生支援課」を設置(キャリア就職課と一体となって在学生および既卒者のキャリア就職支援体制)

教員採用試験対策室

平成23年3月卒業生等の教職への就職状況

今春の卒業生の教職への就職状況は、難関の公立学校採用試験を突破した4名(現役:0名、卒業生:4名)及び私立高校で教諭への昇格(卒業生:1名)の他、県立・私立高校の臨時採用職員として8名が採用されました。特に、専任教諭では、初めて県立高校で理科(化学)で合格し、私立高校でも、昨年、非常勤で採用された卒業生が1年間で数学の教諭に昇格するなど、工業・情報以外の新たな教科の教員が誕生しています。

また、臨時採用職員として採用された人の多くは、本年度の採用試験に挑戦するため学校で働きながら採用試験の準備を進めています。

●県立高校教諭:4名(卒業生)(昨年度:4名)

県 名: 福島県(1名)・神奈川県(3名)
学校名(教科): 福島県立塙工業高校(電子)・神奈川県立新羽高校(理科(化学))・神奈川県立工業高校(機械)・磯子工業高(電気)

●私立高校教諭:1名(卒業生)(昨年度:0名)

県 名: 静岡県
学校名(教科): 星陵高校(数学)

●県立高校臨時的任用職員:2名(昨年度:14名)

県 名: 神奈川県・静岡県
学校名(教科): 静岡県立浜松城北工業高校(電気電子)・神奈川県立上溝高校(理科(助手))

●県立高校非常勤講師・職員:5名(昨年度:2名)

県 名: 神奈川県
学校名(教科等): 釜利谷高校(数学)・伊勢原高校・座間総合高校(理科(生物))・相模向陽館高校・上溝南高校・藤沢西高校(教員補助者)

●私立高校非常勤講師:1名(昨年度:3名)

県 名: 東京都
学校名(教科): 大森学園高校(電気)

企画入学課

刊行物のお知らせ



[2012年度版 大学総合案内]



[2012年度版 研究室ガイド]



[Campus Catalog- KAIT施設案内]



[先輩たちのキャリアストーリー]

平成23年度の教職課程履修者の状況

本年度当初の段階で教職課程を履修している学生の学年別・学科別の人数は次のとおりです。

学 部	学 科	1年	2年	3年	4年
工 学 部	機械工学科	9	11	9	9
	電気電子情報工学科	7	10	6	11
	応用化学科	15	13	5	6
創 造 工 学 部	自動車システム開発工学科	2	1	2	7
	ロボット・メカトロニクス学科	6	4	2	2
	ホームエレクトロニクス開発学科	4	2	1	2
情報学部	情報工学科	6	11	12	6
	情報ネットワーク・コミュニケーション学科	4	7	1	0
	情報メディア学科	7	6	4	0
応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	17	23	10	8
	栄養生命科学科	20	15	—	—
合 計		97	103	52	54

平成23年度の教育実習の状況

免許状取得のためには、中学校教諭免許が3週間、高等学校教諭免許が2週間の教育実習が義務付けられています。本学では、原則として自分の出身校で教育実習を行うこととしています。しかし調整がつかない場合は近隣の中学校・高校にお願いし受け入れてもらうなど、全員の実習が可能になるようにしています。本年度は数名の学生が母校以外の近隣の厚木市立睦中学校及び県立厚木北高校で実習を行っています。本年度は、52名の学生たちが、秋に実施する一部を除き5月上旬から7月上旬にかけて教育実習を行っています。

■校種別・教科別人数

実 習 先	数学	理科	工業	情報	地理	合計
中 学 校	10	6	—	—	—	16
高 校	11	9	11	4	1	36
合 計	21	15	11	4	1	52

■都道府県別人数

北海道:2 青森県:3 宮城:2 秋田:1 栃木:1 群馬:1 東京:2
神奈川:25 新潟:2 山梨:1 長野:3 静岡:5 愛媛:2 沖縄:2

平成23年度公立学校教員採用試験に向けて

各都道府県(市)の教員採用試験は地域ごとに概ね5ブロックに分かれ7月中旬に実施されますが、教員採用試験を受験する4年生の多くは受験の前の5月中旬～6月下旬にかけて教育実習をする必要があります。

そこで、教育実習や採用試験の受験に向けた対策として、4月下旬～6月末まで、次のような対策を実施しています。本年度は受験を控えた4年生や卒業生だけでなく、3～1年生も空き時間を利用して受講するなど意欲的に取り組む学生が増加しています。

- 模擬授業研究
- 学校見学
- 専門教科演習(数学・理科・工業(電・機・化)・情報)
- 一般教養演習(国語・社会・数学・理科・英語・教職教養総合演習)
- 論文演習

今後、4年生の教育実習が終了する6月末の1週間、採用試験直前の総まとめとして次の講座を実施し、受験者が準備を万全にできるよう支援します。

■「直前対策講座」期間:6/20(月)～6/24(金) 1日4講座 計20講座

講 師:本学教職員及び教員出身講師

内 容:一般教養、教職教養、専門教科、論文 等

平成24年度に向けた対策がスタートします

平成24年度の採用試験を受験する3年生にとっては、受験まで1年になりますので、平成23年度の実験対策と平行して、6月下旬に「教員採用試験スターティングガイダンス」を開催し、採用試験受験に向けた心構えの講義や1

年間の対策スケジュールの内容などについてのガイダンスを行い、来年の受験に向けた対策をスタートさせます。

●連絡先

電 話:046-291-3329(ダイヤルイン)「教員採用試験対策室」
Eメール:kyoushoku@kait.jp(対策室専用メール)

●教員採用試験対策室ホームページ

<http://www.kait.jp/~kyoushoku/>

学生課

学生健康診断実施のご案内

毎年、本学では、学校保健法に基づいて在学生を対象にした健康診断を実施しています。今年は、当初4月のオリエンテーション時に実施予定でしたが、震災の影響がありオリエンテーション日程が変更になった為、6月4日(2年生)、6月18日(1年生)、6月25日(3年生)(※大学院生は何れかの日を選択)の日程で実施しました。また、4年生については就職活動に必要なため今年2月に早期実施済みですが、未受診者は何れかの日に受診するように案内をしています。

健康診断の内容は、身長・体重・視力・尿検査・胸部間接撮影の基本的な項目ですが、疾病等の早期発見につながることもありますし、自身の健康状態を知る上でも良い機会になると考えております。今年も健康診断について、学生へ診断を促していただく保護者の皆様へ、ご案内を郵送させていただきました。

バイク通学者へ登録を促しています

本学はバイク通学を許可していますが、通学で利用するバイク登録をする必要があります。新年度4月当初より、バイク駐輪場に安全指導員を配置し、登録の促進と安全運転への注意喚起を実施しておりますが、5月20日現在、4割程度の未登録の学生が見受けられます。登録には、保証人の方の同意書(登録申請書)と、免許証・自賠責保険・任意保険のコピーが必要です。登録申請時に任意保険未加入の学生もまれに見受けられます。万が一の際、事故時の損害補償などを考えると任意保険の加入は不可欠です。任意保険はファミリー特約として自動車保険に付随している場合もあります。この機会にご子息の保険の内容をご確認いただき、未加入の場合は是非加入していただきますようお願いいたします。

キャリア就職課

東日本大震災の影響により、今年度も求人状況は大変厳しくなっております。

本学の求人状況も、昨年度同時期に比べ減少しており、多くの企業が経済状況をらみながら採用活動を行っているようです。詳細な求人情報は、キャリア就職センターホームページ「KAIT NAVI」に随時更新しておりますので是非活用してください。

第5回合同企業説明会開催

厳しい状況のなか、危機感を持って就職活動している学生のために、第5回合同企業説明会を5月16日～20日に実施しました。参加学生は熱心に各ブースをまわって説明を聞いており、企業側からも好評を頂きました。今年度もより多くの学生が内定を獲得できるよう、今後も積極的に説明会を開催していく予定です。

■参加企業数:206社/参加学生数:5日間延べ1,444名

平成22年度就職状況

厳しい就職環境のなか、今年3月に卒業した学生の就職状況は、卒業生934名のうち進学者196名(研究生を含む)、その他70名で就職希望者は668名でした。就職希望者のうち就職決定者は581名で就職率は87.0%で終了しました。平成22年度は、急激な世界経済の減退のなか、大変検討したと考えます。なお、残念ながら就職が決まらず、研究生になった学生には、フォローアップ講座を定期的に行い、就職活動のサポートを継続して行っています。

レスキュー用アシストスーツが新聞で紹介されました

ロボット・メカトロニクス学科 吉満俊拓准教授

ロボット・メカトロニクス学科吉満俊拓准教授が開発した災害用救助ロボット「レスキュー用アシストスーツ」は、両足の外側に取り付ける「人が着用するロボット」です。災害現場で救助や復旧にあたる人が着用し、がれきを持ち上げるなど膝に力を入れるときの負担を軽減する仕組みになっています。この研究について、2年前から研究室で試行錯誤を繰り返してきたことなどが、東京新聞の「仕事」「ロボット工学研究者」の特集で、紹介されました。

東京新聞／
平成23年5月2日掲載



太陽光発電の効率を上げるシステム

電気電子情報工学科 板子一隆准教授

電気電子情報工学科の板子一隆准教授が、太陽光発電の効率を上げる制御法「瞬時スカン法」を採用したシステム「ソーラーパーフェクト」を発表したことが、日刊工業新聞に掲載されました。従来の方法の欠点を克服し、最大電力点を確実にとらえ、従来法と比べて電力量を44%増やすことができたことが紙面で紹介されています。

日刊工業新聞／
平成23年6月6日掲載



「復興に役立ててもらいたい」 新入生が被災地に見舞金

東日本大震災の復興のために、本学の新入生の代表者が神奈川県県央総局を訪れ災害見舞金200万円を寄託しました。今回の大震災で被災した本学新入生は116名居ます。遭えなく中止となった今年度の入学式費用の一部を、「復興に役立てて欲しい」と、新入生全員の名前で被災見舞金として寄付することとなり、神奈川県に代表者の情報工学科1年横山文香さん(宮城県気仙沼市出身)のコメントが紹介されました。

神奈川新聞／
平成23年5月20日掲載



地震予知を目指した大気イオン濃度の測定がテレビで紹介されました

機械工学科 矢田直之准教授

機械工学科の矢田直之准教授は、「地震予知」の研究を17年間続けています。中でも「大気中のイオンの異常」が地震予知の前兆現象に見られたのではないかと、研究についてフジテレビ「ニュースジャパン」の取材を受けました。矢田准教授は「巨大地震3ヶ月前ぐらいから、地中にラドンガスが大量に放出され、大気イオンの異常がイオン測定器で確認されていた。」とし、イオン測定器が、各県に1台設置されれば現在よりもかなり精度が高まるのではないかと話しました。



フジテレビ「ニュースジャパン」／平成23年6月15日放送

ラジオFM横浜で「Stop The Co₂ Project」 に取り組む学生プロジェクトが紹介されました

6月10日放送のラジオ番組FM横浜「THE BREEZE」に、Stop The Co₂ Projectで取り組む機械工学科航空宇宙専攻3年鈴木麻優さんと機械工学科矢田直之准教授が出演し、ECOIに取り組むトピックスとして紹介されました。鈴木さんが取り組むプロジェクトは、「LED照明と蛍光灯の空調への影響比較」と題する研究で、LED蛍光灯の性能比較として、「LED照明+空調」、「蛍光灯+空調」のそれぞれの組み合わせ時のエネルギー削減効率を比較検討するものです。鈴木さんは「照明は点灯しているだけで熱を発生しています。現状の蛍光灯は50℃くらいなのにに対し、LED蛍光灯は30℃くらい。LED蛍光灯に変えると、空調の温度も下げられ、省エネにつながります。」とStop The Co₂ Projectから得られた結果を話しました。

FM横浜「THE BREEZE」／平成23年6月10日放送

「車椅子を被災地へ」支援活動が紹介されました

KWR修理屋

近隣の福祉施設などに送るため、車椅子の修理やメンテナンス指導などに取り組む「KWR修理屋」のメンバーの学生が、東日本大震災の被災地へ向けて車椅子を届ける活動を行い、それに伴い50台もの車椅子の修理を行いました。また、同日に、学内で集めた支援物資の仕分け作業も行い、その活動が朝日新聞で紹介されました。一連の活動については、厚木伊勢原ケーブルテレビ、読売新聞、広報あつぎなどでも紹介されました。(関連記事を裏表紙に掲載)



朝日新聞／平成23年4月24日・5月9日掲載・読売新聞6月6日掲載・広報あつぎ6月1日号掲載・厚木伊勢原ケーブルテレビ放送

東日本大震災被災地へ向けた「KAIT支援プロジェクト」のさまざまな活動 ～被災地の力になりたい～

3月11日、宮城県三陸沖で発生した巨大地震では東北・関東を中心に甚大な被害をもたらしました。今もなお、多くの方が避難所生活を送り、不自由な生活を余儀なくされています。被災地へ向けて全国でさまざまな支援活動が続けられている中、神奈川工科大学では、学生が中心となり、「KAIT支援プロジェクト」が立ち上がりました。また、被災地支援ブログでは、支援活動の報告や、被災地で必要とされている支援の情報の呼びかけなどが発信されています。

大学で集めた支援物資の仕分け作業・車椅子修理会を実施

4月23日、神奈川工科大学第二体育館で、50台の車椅子の修理・メンテナンス、ノーバंकタイヤへの交換、及び支援物資の仕分け作業を行いました。

参加者は全体で約90名で、車椅子修理をしてくださった方は50人ほどです。地域の高校生や教員の方、いつも修理方法の講習会を行っている病院の方など、様々な方に参加していただきました。また、ブログを見た一般の方や社会福祉協議会、大学関係者の方から寄せられた支援物資の仕分け作業も行われました。



車椅子修理の様子



支援物資の仕分け作業の様子



種類別に分けられた支援物資



「閉会式」参加者から感想がありました



今後も日ごろの活動を活かした支援を続けていきます。(KWR修理屋サークルの皆さん)



避難所へ車椅子を届けました

4月2日、「KWR修理屋」のメンバー4人は、福島県双葉町民1200人の避難所である埼玉県加須市の旧騎西高校に車椅子5台(大森学園高校提供)と工具をワゴン車に乗せて、訪ねました。



避難所へ車椅子と支援物資を届けました

4月24日、埼玉県加須市の避難所へ、車椅子と支援物資を届けました。

神奈川工科大学の学生7名と、新潟医療福祉大学の学生さん2名、修理会や物資の収集、仕分けについてご指導いただいた日本社会福祉弘済会の方、そして、ロボット・メカトロニクス学科の小川教授(KWR顧問)が参加しました。



被災地障害者支援報告会に参加

6月5日、東日本大震災被災地障害者支援の報告会が東京で行われました。主として、ふだんは開発途上国の障害者支援に当たっている諸団体が、今回、被災にあわれた障害者の方々への支援をしています。報告された問題としては、避難所などでは暮らせない方々が多く、実態把握も不十分な状況があること、また、個人情報の問題もあり、しっかりと自治体と連携して動く必要があることなどでした。日本障害者協議会、日本盲人会連合、日本ろうあ連盟、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、難民を助ける会、その他看護、福祉系の諸団体が、それぞれの専門性を活かした活動をしてきています。本学の学生たちも、夏に向けての活動に意を強くしていました。

被災地への車椅子支援について、さまざまなメディアで紹介されました

厚木伊勢原ケーブルテレビ放送／朝日新聞5月9日掲載／広報あつぎ6月1日号掲載／読売新聞6月6日掲載

「神奈川工科大学 被災地支援ブログ」を開設

本学の学生や職員の被災地へ向けての支援活動を報告しています。また、必要な支援物資の情報なども掲載しています。ぜひご覧下さい。

http://blog.goo.ne.jp/kait_wg

被災地支援ランチを実施中です

ランチ代の一部が被災地への義援金となる「支援ランチ」を第2食堂で実施中です。



FCVプロジェクトが「2011ワールドエコノムーブ秋田大会」の燃料電池部門で6位入賞

FCVプロジェクトが、秋田県大湯村ソーラースポーツラインで5月の連休に開催された「2011ワールドエコノムーブ秋田大会」の燃料電池部門で6位に入賞しました。昨年度は、2位入賞の好成績であったため、さらなる好記録達成を目指してチームメンバーは1年間努力してきました。

性能が良好な燃料電池電装制御系やインホイールモータ系はそのままとし、フレーム周り、カウル系、ブレーキ系等を新規設計して臨みました。特に、フレーム系とカウル系は、軽量化と空気力学特性を向上させるため、フルカーボンのモノコックボディを採用しました。昨年度まで使用した燃料電池は故障したため、新規の燃料電池を採用しました。

震災の影響で作業時間がとれず、システムの完成が遅れましたが、遠征1週間前に学内でテスト走行ができる状況までこぎつけました。

メカ系はなんとか立ち上げましたが、新規採用の燃料電池の発電特性が芳しくなく、思うように走行できませんでした。それでも、チームメンバーの必死の努力により、6位入賞を果たしました。事故や怪我もなく無事に帰還できまして、安堵しております。ご声援をいただきました皆様に感謝申し上げます。

(文責:FCVプロジェクト・ファカルティ・アドバイザー・高橋良彦)



卒業生より卒業記念品が贈呈されました。

平成22年度卒業生の皆様より、屋外用の丸型時計を寄贈いただきました。中央緑地公園から時刻が確認できるように図書館上部に設置いたしました。卒業生の皆様ありがとうございました。

